(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3593775号

(P3593775)

(45)発行日　平成16年11月24日(2004.11.24)　(24)登録日　平成16年9月10日(2004.9.10)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
G08B 3/00	G08B	3/00	
G08B 5/00	G08B	5/00	K
H04L 12/28	H04B	7/26	103F
H04Q 7/14	H04L	11/00	310D

請求項の数 2　(全 44 頁)

(21)出願番号　特願平8-9816
(22)出願日　平成8年1月24日(1996.1.24)
(65)公開番号　特開平9-204581
(43)公開日　平成9年8月5日(1997.8.5)
審査請求日　平成13年3月12日(2001.3.12)

(73)特許権者　000005108
株式会社日立製作所
東京都千代田区丸の内一丁目６番６号
(74)代理人　100075096
弁理士　作田　康夫
(72)発明者　入船　和之
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町２１６番地株式会社　日立製作所　情報通信事業部内
(72)発明者　島崎　文彦
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町２１６番地株式会社　日立製作所　情報通信事業部内
(72)発明者　森　健
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町２１６番地株式会社　日立製作所　情報通信事業部内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】メッセージ通知システム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

特定の施設への来場者に携帯させるメッセージ受信手段にメッセージを通知するメッセージ通知システムにおいて、

来場及び退場手続き用情報処理装置、読取装置、書込装置、送受信装置を含む窓口装置と、

来場者を特定し、該来場者に関する個人認証番号を含む情報を持ち、受信情報を表示する表示部を有した来場者携帯端末と、

特定の施設に設置された、来場者携帯端末の情報を読取る読取装置、前記読取装置の固有の読取手段認証番号及び該読取装置で読み取った情報を中央管理局に送信し、該中央管理局のデータベースからの情報を受信する送受信装置を含む特定施設装置と、

前記中央管理局からの通知メッセージを受信し表示する掲示装置と、

前記来場者端末からの情報を受信し、前記データベースからの通知メッセージ情報を前記来場者端末及び前記掲示装置に送信する送受信装置、前記個人認証番号を含む前記来場者に関する受信情報、前記読取手段認識番号及び通知メッセージ情報を受信する受信手段を呼出すための呼出番号を記憶するデータベース、前記受信手段呼出番号に対応する前記来場者端末に対して前記通知メッセージを送信する発信局と、該データベースの情報管理と認証、来場者の入場許可、前記通知メッセージ作成処理などの機能を有し、前記送受信を制御するホストを含む前記中央管理局と、

を備え、

前記特定の施設に設置された読取装置は来場者が前記特定の施設に来場したとき、来場者に関する情報を読取り、該読取り情報を前記送受信装置を介して前記中央管理局に送信し、
前記中央管理局のデータベースは前記各受信情報を登録し、
前記中央局のホストは前記個人認証番号、前記読取手段認証番号を基づいて特定施設の利用予約の処理を実行し、前記受信情報に基づいて前記データベースを検索し、前記受信手段呼出番号に対応する前記来場者端末に対し前記発信局を介して呼出し制御し、
前記中央局の発信局は前記受信手段呼出番号に対応する前記来場者端末を呼出した後、該端末に前記予約通知メッセージを送信し、
前記窓口装置の書込装置は前記来場者端末に前記構築データを書込み、該来場者端末への登録を完了させる
ことを特徴とするメッセージ通知システム。
【請求項２】
来場者の特定施設への利用状況を管理するデータ管理システムにおいて、
前記来場者の個人認証番号を含む来場者に関する情報を保持している来場者端末から読取られた来場者に関する情報、該来場者端末の読取手段を特定する固有の認証番号及び来場者の入退出窓口手段からの入退出情報を受信する受信手段と、
前記受信手段によって受信した前記個人認証番号、前記読取手段認証番号、前記来場者に関する情報、前記受信手段を特定する呼び出し番号、前記入退出情報とを記憶するデータベースと、
前記受信手段呼び出し番号に対応する前記来場者端末を呼び出して通知メッセージを送信する機能を有する発信局と、
前記データベースの情報管理と認証、来場者の入場許可、前記メッセージ作成処理などの機能を有し、前記送受信を制御するホストと
を含む前記中央管理局からなり、
前記個人認証番号、前記読取手段認証番号を基づいて特定施設の利用予約の処理を実行し、前記受信情報に基づいて前記データベースを検索し、前記受信手段呼出番号に対応する前記来場者端末に対し前記発信局を介して呼出し制御し、前記受信手段呼出番号に対応する前記来場者端末を呼出した後、該端末に前記予約通知メッセージを送信し、来場者の特定施設の入退出及び予約、利用状況を管理するデータ管理システム。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、遊園地、イベント会場、コンベンション会場、デパート（バーゲンの行列）、映画館、ホテルへの応用（トランスポンダーをキーの代用とする）、工場への応用（ＩＤカードの代用、食堂・売店でカードレス化）に利用可能である。
【０００２】
【従来の技術】
従来遊園地で遊ぶ場合、先ずチケットを買い、希望するアトラクションに乗る為に長時間行列を作って並ぶ必要があった。そのため並んでいる間、他の乗物に乗ることが出来ず、乗車できるアトラクション数が限られてしまうという欠点があった。また休祝日は、混雑している上、長い間並ばなければならなかったので、二の足を踏んでいた。また、施設の事業者にとっては、並ぶためのスペースが必要、行列の整理係の人間が多数必要、並んでいる間顧客が消費する機会を与えることが出来なかった。このような問題を解決する手段が、従来の技術では無かった。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
特定の施設への来場者に携帯させるメッセージ受信手段に制御手段が受信したデータに基づいてデータベースを検索し対応するメッセージを前記受信手段に表示する手段がなかった、という第１の課題がある。前記来場者がメッセージ受信に不適切な場所に存在してい

る場合、メッセージ受信手段にメッセージを通知することを中断し、受信に適切な場所に移動後再びメッセージ受信手段にメッセージを通知する必要がある、という第２の課題がある。来場者が施設の入場予約を完了した時、制御手段が記憶手段より来場者が施設に予約した順番と、施設に入場した人数を読み出し、入場までの待ち時間を算出して、メッセージ受信手段に待ち時間を通知する手段がなかった、という第３の課題がある。制御手段が、記憶手段より来場者が施設内で利用した金額を読み出し、合計金額を算出し、メッセージ受信手段に施設内で利用した金額を通知する手段がなかった、という第４の課題がある。制御手段に管理され、施設の待ち時間と連絡事項を掲示板に表示する手段がなかった、という第５の課題がある。施設に来園している団体から、団体呼出の希望があった場合、団体の参加者全員が携帯しているメッセージ受信手段に一斉に呼出をかける手段がなかった、という第６の課題がある。施設の管理者が、施設の来場者が利用した施設名と施設内で購入した品目、食事の品目を管理する手段がなかった、という第７の課題がある。制御手段が記憶手段に記憶されているデータを性別、年齢別に分類することにより、施設の管理者が、来場者の性別と年齢別に利用施設名を管理する手段がなかった、という第８の課題がある。制御手段が記憶手段に記憶されているデータから、施設別に来場人数を管理する手段がなかった、という第９の課題がある。施設への入場を予約する時、長時間行列を作って並ばなければならない、という第１０の課題がある。個人認証番号を記憶手段に登録することにより予約を完了したとき、予約完了を来場者が携帯するメッセージ受信手段に予約完了メッセージを通知する必要がある、という第１１の課題がある。制御手段が予約者の施設への入場が可能であると判断した場合に、入場可能と判断された予約者が携帯するメッセージ受信手段に入場許可メッセージを通知する必要がある、という第１２の課題がある。

【０００４】

来場者が施設の入場予約を完了した時、制御手段が入場までの待ち時間を算出する手段がなかった、という第１３の課題がある。来場者が施設への入場を予約したとき、制御手段が記憶装置に記憶されているデータから、来場者が施設に入場が可能であるか判定する手段がなかった、という第１４の課題がある。来場者が２重に予約を試みたとき、予約を受け付けないようにする必要がある、という第１５の課題がある。制御手段がメッセージ受信手段に入場可能となったことを通知している数に対して、施設に入場する人数が極端に少なかった場合、効率よく稼働できない、という第１６の課題がある。来場者が施設入場への予約のキャンセルを希望した場合、予約をキャンセルにする必要がある、という第１７の課題がある。来場者が同時に行える予約数を制限する必要がある、という第１８の課題がある。入場を許可されていない人物が施設への入場を試みたとき、制御手段が入場を許可されていない人物の入場を規制する手段がなかった、という第１９の課題がある。顧客は売店で購入した商品を施設内で持ち歩くかねばならない、という第２０の課題がある。顧客は施設内の売店、レストランで毎回清算しなければならない、という第２１の課題がある。施設内で利用した料金を銀行又はクレジットカードで支払うという手段がなかった、という第２２の課題がある。来場者が施設に入場する度に制御手段が個別課金を行い、来場者が退園する時に一括して清算する手段がなかった、という第２３の課題がある。来場者が施設内で購入した商品を一括してパッキングを行い、来場者が退園時にパッキングされた品物を一括して受け取りが出来る手段がなかった、という第２４の課題がある。制御装置がデータベースより、来場者の個人認証番号と購入した品名を読み出し、パッキングセンターに設置されている受信手段にデータを通知し、パッキングセンターにおいて品物のパッキングを行う手段がなかった、という第２５の課題がある。施設への来場者が園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成される個人データを出力する手段がなかった、という第２６の課題がある。来場者が園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成される個人データを来場者に差し上げる手段がなかった、という第２７の課題がある。来場者の少なくとも氏名を含む個人データと利用した施設名、購入した品目、食事の品目を個人データとして記憶する手段がなかった、という第２８の課題がある。来場者が無断で施設に入場することを規制しなければな

らない、という第２９の課題がある。ＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が施設への入場を予約した場合、一般来場者に気付かれずに優先予約を行う手段がなかった、という第３０の課題がある。制御手段がデータを管理することによりＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が、待ち時間なしで施設に入場出来る手段がなかった、という第３１の課題がある。顧客が施設内のレストランで食事をする時、少なくとも氏名を含む個人データベースに各食事の品目を登録する手段がなかった、という第３２の課題がある。施設内のレストランでの食事の合計金額を算出する手段がなかった、という第３３の課題がある。案内所で、個人別の情報を通知したり、施設への入場予約、またはキャンセルを行う手段がなかった、という第３４の課題がある。案内所で、来場者に施設入場までの待ち時間を通知する手段がなかった、という第３５の課題がある。案内所で、来場者が施設内で利用した合計金額を通知する手段がなかった、という第３６の課題がある。案内所で、施設への入場予約を行う手段がなかった、という第３７の課題がある。案内所で、施設への入場予約のキャンセルを行う手段がなかったという、第３８の課題がある。データを保持する保持手段とメッセージ受信手段を兼ね備えた登録表示一体型端末がなかったという、第３９の課題がある。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

第１の課題に対しては、来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段の固有の読取手段認証番号と前記保持手段より読みとったデータとを送信する送信手段と、前記送信手段からの送信されるデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼び出し番号とを記憶するデータベースと、前記制御装置が前記受信手段で受信したデータに基づいて前記データベースを検索し対応するメッセージ受信手段呼出番号を用いて前記メッセージ受信手段を呼び出す呼出手段と、前記制御装置に制御され前記呼び出されたメッセージ受信手段に任意のメッセージを通知する通知手段と、前記メッセージ受信手段に備えられ前記通知手段より通知されるメッセージを表示する表示手段と、を備えるという手段がある。

【０００６】

第２の課題に対しては、来場者がアトラクション、売店、レストランのいづれかに存在している場合、制御装置はメッセージ受信手段にメッセージを通知することを中断し、一定時間経過後に前記データベースを検索し、前記来場者が呼出可能の位置に存在すると判定されると、メッセージ受信手段にメッセージを通知するという手段がある。

【０００７】

第３の課題に対しては、制御手段が記憶手段より来場者が前記施設に予約した順番と、施設に入場した人数を読み出し、読み出した数値を特定の数式に代入して計算を行い、入場までの待ち時間を算出して、来場者が携帯するメッセージ通知手段にメッセージを通知するという手段がある。

【０００８】

第４の課題に対しては、制御手段がデータベースのデータより、来場者が施設内で利用した金額を読み出し、来場者が買い物や食事で利用した合計金額を算出し、合計金額をメッセージ受信手段に通知するという手段がある。

【０００９】

第５の課題に対しては、制御手段は記憶手段からデータを読み出し、入場予約をした場合の入場までの待ち時間を算出し、制御手段からメッセージをメッセージ受信手段を備えている掲示板に送信され、メッセージを表示するという手段がある。

【００１０】

第６の課題に対しては、団体が来園した場合、団体のメンバーに前記団体用にメッセージ受信手段呼出番号を登録しておいたメッセージ受信手段を携帯してもらい、団体呼出の希望があった場合、

制御手段から前記メッセージ受信手段にメッセージを送信し、前記団体の参加者全員に一斉に呼出をかけるという手段がある。

【００１１】

第７の課題に対しては、来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段の固有の読取手段認証番号と前記保持手段より読みとったデータとを送信する送信手段と、前記送信手段からの送信されるデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼び出し番号とを記憶するデータベースとを備えるという手段がある。

【００１２】

第８の課題に対しては、制御手段が記憶装置に記憶されているデータを性別、年齢別に分類することにより、施設の管理者が、来場者の性別と年齢別に利用施設名を管理するという手段がある。

【００１３】

第９の課題に対しては、制御手段が記憶装置に記憶されているデータを、施設別に分類することにより、施設の管理者が、施設別にゲートにおける来場者の通過人数を管理するという手段がある。

【００１４】

第１０の課題に対しては、施設に設置される予約ゲートと、前記施設への来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含む個人データを保持する保持手段と、前記予約ゲートに設置され前記施設への来場者が前記予約ゲートを通過する際に前記保持手段に保持された前記個人データを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段が有する固有の読取手段認証番号と前記保持手段から読み取った個人データとから成る予約データを送信する送信手段と、前記送信手段から送信される予約データを受信する受信手段と、前記受信手段に接続され該受信手段が受信する前記予約データに基づいて各施設ごとの予約者リストを作成する情報処理手段と、前記情報処理手段に制御され前記予約者リストを記憶する記憶手段とを備えるという手段がある。

【００１５】

第１１の課題に対しては、制御手段により予約データが予約リストに登録された後に予約完了メッセージを通知する通知手段と、予約通知手段により通知される予約完了メッセージを受信するメッセージ受信手段と、メッセージ受信手段により受信された予約完了メッセージを出力する出力装置とを備えるという手段がある。

【００１６】

第１２の課題に対しては、制御手段が予約者が施設への入場が可能であると判断した場合に、前記施設への入場可能と判断された予約者が携帯するメッセージ受信手段に入場許可メッセージを送信するという手段がある。

【００１７】

第１３の課題に対しては、制御手段が記憶手段から、来場者が施設に予約した順番と、前記施設に入場した人数を読み出し、読み出した数値を特定の数式に代入して計算を行い、入場までの待ち時間を算出するという手段が考えられる。

【００１８】

第１４の課題に対しては、制御装置が記憶装置に記憶されているデータから、来場者が施設に入場が可能であるか判定するという手段がある。

【００１９】

第１５の課題に対しては、来場者が未だアトラクションに入場していないにも関わらず、同一アトラクションを繰り返して予約してきたとき、制御装置が前記データベースの個人データを読み出して、重複登録であるか判定して、既に予約している場合予約を受け付けないと言う手段がある。

【００２０】

第１６の課題に対しては、制御手段は、データベースより施設に入場する人数を算出し、前記制御手段がメッセージ受信手段に入場可能となったことを通知している数に対して、前記施設に入場する人数が極端に少なかった場合に、入場呼び出し者を臨時に追加して、追加された予約者が携帯しているメッセージ受信手段に入場可能となったことを通知するという手段がある。

【００２１】

第１７の課題に対しては、来場者がアトラクション予約のキャンセルを希望した場合、データベースのアトラクションデータの予約の欄を書き換え、予約をキャンセルにするという手段がある。

【００２２】

第１８の課題に対しては、制御手段がデータベースのデータを管理することにより、来場者が同時に行える予約数を１人当たりの予約可能数と比較し、予約可能である場合に予約を受け付けるという手段がある。

【００２３】

第１９の課題に対しては、入場を許可されていない人物が施設への入場を試みたとき、制御手段が入場規制信号を通知する信号通知手段と、前記信号通知手段により通知される入場規制信号を受信する信号受信手段と、前記信号受信手段により受信された前記入場規制信号により入場を許可されていない人物の入場規制手段とを備えるという手段がある。

【００２４】

第２０の課題に対しては、顧客が携帯し少なくとも該顧客の個人認証番号を含む個人データを保持する個人データ保持手段と、前記個人データ保持手段に保持された前記個人データを読み取る第１の読取手段と、前記売店の商品に付され各商品ごとに設定される商品番号と該商品の値段とを少なくとも含む商品データを保持する商品データ保持手段と、前記商品データ保持手段に保持された前記商品データを読みとる第２の読取手段と、前記第１の読取手段が前記個人データ保持手段から読み取った個人データと前記第２の読取手段が前記データ保持手段から読み取った商品データとから成る商品購入データを送信する第１の送信手段と、前記第１の送信手段から送信される商品購入データを受信する受信手段と、前記受信手段に接続され該受信手段が受信する前記商品購入データに基づいて各顧客ごとの商品購入リストを作成する情報処理手段と、前記商品引き渡し場所に設置され前記個人データ保持手段に保持された前記個人データを読みとる第３の読取手段と、前記第３の読取手段により読み取られた個人データを含む商品引き渡し要求データを送信する第２の送信手段と、前記受信手段により受信される前記商品引き渡しデータに基づいて前記情報処理手段が商品購入リストを検索し引き渡すべき商品の前記商品番号を選択し該選択された商品番号を通知する商品番号通知手段と、前記商品番号通知手段から通知される前記商品番号を受信する商品番号受信手段と、前記商品番号受信手段により受信された前記商品番号を出力する出力手段とを備えるという手段がある。

【００２５】

第２１の課題に対しては、制御手段が前記商品購入リストより購入品目を読み出して、施設内で利用した金額を計算して退園窓口に連絡することにより、前記来場者が退園時に一括して清算するという手段がある。

【００２６】

第２２の課題に対しては、来場者が、施設来場時に銀行の口座番号又はクレジットカードのカード番号をデータベースに登録しておくことにより、施設内で利用した料金を銀行又はクレジットカードで支払うという手段がある。

【００２７】

第２３の課題に対しては、来場者が施設に入場する度に前記制御手段が個別課金を行い、前記課金をデータベースに登録して、制御手段が前記データを基に合計の金額を算出し、前記制御手段が前記データを送信する送信手段と、前記送信手段から送信される前記データを受信する受信手段と、
を備えており、前記来場者が退園する時に一括して清算するという手段がある。

【００２８】
第２４の課題に対しては、来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段の固有の読取手段認証番号と前記保持手段より読みとったデータとを送信する送信手段と、前記送信手段からの送信されるデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼び出し番号とを記憶するデータベースと、前記制御手段が前記来場者の個人認証番号と前記来場者が購入した品目を送信する送信手段と、前記送信手段から送信されるデータを受信する受信手段とを備えており、前記来場者が施設内で過ごしている間に前記送信手段より前記データを商品のパッキングを行うパッキングセンターに設置されている前記受信手段に送信しておき、パッキングセンターで前記来場者が購入した品物をパッキングしておくことにより、前記来場者が退園時にパッキングされた品物を一括して受け取るという手段がある。

【００２９】
第２５の課題に対しては、制御装置がデータベースより、来場者の個人認証番号と購入した品名を読み出し、送信手段から前記データをパッキングセンターに設置されている受信手段に連絡し、パッキングセンターにおいて品物のパッキングが行うという手段がある。

【００３０】
第２６の課題に対しては、来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段の固有の読取手段認証番号と前記保持手段より読みとったデータとを送信する送信手段と、前記送信手段からの送信されるデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼び出し番号とを記憶するデータベースと、前記制御手段に接続して、前記データベースに登録されている個人データに基づいてデータを出力する出力手段とを備える手段がある。

【００３１】
第２７の課題に対しては、来場者が園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成される個人データを前記出力手段に出力するという手段がある。

【００３２】
第２８の課題に対しては、施設に入場前に少なくとも氏名を含む個人データの記入と、前記個人データの読み取り手段と、前記読み取り手段が読み取ったデータを送信する送信手段と、前記送信手段から送信されたデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも氏名を含む個人データを記憶する記憶装置と、前記施設に設置される入場ゲートと、前記施設への来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含む個人データを保持する保持手段と、前記入場ゲートに設置され前記施設への来場者が前記入場ゲートを通過する際に前記保持手段に保持された前記個人データを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段が有する固有の読取手段認証番号と前記保持手段から読み取った個人データとから成る入場データを送信する送信手段と、前記送信手段から送信される入場データを受信する受信手段と、前記受信手段に接続され該受信手段が受信する前記入場データに基づいて個人データを作成する情報処理手段と、前記情報処理手段に制御され前記個人データを記憶する記憶手段とを備える手段がある。

【００３３】
第２９の課題に対しては、来場者が施設に入場する為に、読み取り手段が設置されているゲートを通過するとき、制御手段が個人認証番号をデータベースの個人データに登録されているか確かめることにより前記来場者が前記施設で登録されている保持手段を所持しているか確認することにより無断で施設に入場することを規制する手段がある。

【００３４】
第３０の課題に対しては、ＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が来場した場合、特別

来場者用に、一般の来場者とは別に割り当てた個人認証番号を含むデータを保持する保持手段であり、記憶手段は、少なくとも特別来場者の個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼出番号とを記憶する特別来場者用記憶手段を備えるという手段がある。

【００３５】

第３１の課題に対しては、特別来場者が、特定の施設への入場を予約する特別来場予約システムにおいて、読取手段が設置されているゲートを通過して予約する際、送信手段により前記制御手段に送信されたデータは前記特別来場者用記憶に登録され、特別来場者は、待ち時間なしで施設に入場するという手段がある。

【００３６】

第３２の課題に対しては、顧客が携帯し少なくとも該顧客の個人認証番号を含む個人データを保持する個人データ保持手段と、前記個人データ保持手段に保持された前記個人データを読み取る第１の読取手段と、前記レストランの食事に付され各食事ごとに設定される食事番号と該食事の値段とを少なくとも含む食事データを保持する食事データ保持手段と、前記食事データ保持手段に保持された前記食事データを読みとる第２の読取手段と、前記第１の読取手段が前記個人データ保持手段から読み取った個人データと前記第２の読取手段が前記データ保持手段から読み取った食事データとから成るレストランデータを送信する第１の送信手段と、前記第１の送信手段から送信されるレストランデータを受信する受信手段と、前記受信手段に接続され該受信手段が受信する前記レストランデータに基づいて各顧客ごとのレストランリストを作成する情報処理手段とを備えるという手段がある。

【００３７】

第３３の課題に対しては、制御手段はデータに基づいて各顧客ごとの食事の合計金額を計算し、前記合計金額を送信する送信手段と、前記送信手段により送信された前記合計金額を受信する受信手段とを備えるという手段がある。

【００３８】

第３４の課題に対しては、来場者が携帯し少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを読みとる読取手段と、前記読取手段に接続され該読取手段の固有の読取手段認証番号と前記保持手段より読みとったデータと案内を希望する内容とを送信する送信手段と、前記送信手段からの送信されるデータを受信する受信手段と、前記受信手段を制御する制御手段と、前記制御手段に制御され少なくとも個人認証番号、読取手段認証番号及びメッセージ受信手段呼び出し番号とを記憶するデータベースと、前記制御装置が前記受信手段で受信したデータに基づいて前記データベースを検索し対応するメッセージ受信手段呼出番号を用いて前記メッセージ受信手段を呼び出す呼出手段と、前記制御装置に制御され前記呼び出されたメッセージ受信手段に任意のメッセージを通知する通知手段と、前記メッセージ受信手段に備えられ前記通知手段より通知されるメッセージを表示する表示手段とを備えるという手段がある。

【００３９】

第３５の課題に対しては、制御手段はデータベースからデータを読み出し、入場可能となるまでの待ち時間を算出し、前記制御手段から待ち時間メッセージを通知するメッセージ通知手段と、前記メッセージ通知手段からの待ち時間メッセージを受信するメッセージ受信手段と、前記メッセージ受信手段に備えられ前記通知手段より通知されるメッセージを表示する表示手段とを備えるという手段がある。

【００４０】

第３６の課題に対しては、制御手段がデータベースのデータより、前記来場者が買い物や食事で利用した合計金額を算出し、前記通知手段により前記合計金額を受信するメッセージ受信手段と、前記メッセージ受信手段に備えられ前記通知手段より通知されるメッセージを表示する表示手段とを備えるという手段がある。

【００４１】

第３７の課題に対しては、来場者がアトラクション予約を希望した場合、送信手段から送

信される予約データを受信する受信手段と、前記受信手段に接続され該受信手段が受信する前記予約データに基づいて各施設ごとの予約者リストを作成する制御手段と、前記制御手段に制御され前記予約者リストを記憶するデータベースとを備えるという手段がある。

【００４２】

第３８の課題に対しては、来場者がアトラクション予約のキャンセルを希望した場合、データベースのアトラクションデータの予約の欄を書き換え、予約をキャンセルにするという手段がある。

【００４３】

第３９の課題に対しては、少なくとも該来場者の個人認証番号を含むデータを保持する保持手段と、前記保持手段に保持されたデータを送信する送信手段と、制御装置に制御され、任意のメッセージを通知する通知手段より送信されるメッセージを受信するメッセージ受信手段と、前記メッセージ受信手段に備えられ前記通知手段より通知されるメッセージを表示する表示手段とを備えるという手段がある。

【００４４】

【発明の実施の形態】

図１，２を用いて本システムのネットワーク構成を説明する。

【００４５】

入場者が携帯するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション、売店などに設置されているゲートを２、ゲートに設置されているトランスポンダーの読取装置を２－５、前記読取装置が読み取ったデータを送信する送受信装置で有線による送信装置を２－６、無線による送信装置を２－８とする。又、中央管理局に設置する発信局を３－１、ホストを３－２、データベースを３－３とする。入園窓口にある読み取り装置を４－１、書き込み装置を４－２とする。退園窓口、案内所にあるパソコンを５－２とし、売店にあるレジを８とする。又、顧客が購入した品物のパッキングを行うパッキングセンターを５－４とする。園内に設置する掲示板を１０とする。

【００４６】

トランスポンダーを携帯した入場者が、読み取り装置が設置されているゲートを通過すると、読み取り装置はトランスポンダーからコイルデータを読み取り、送受信装置を用いて中央管理局に送信する。中央管理局にある送受信装置は、送られてきたデータを受信する。データベースは受信したデータを記憶する手段である。ホストは、認証や入場の許可など様々な処理を行ったり、又メッセージを作成する。作成されたメッセージは、ホストから発信局に送信され、送信局より入場者が携帯するページャーへ送信される。又、ホストが算出した待ち時間は掲示板に送信され、掲示板に表示される。

【００４７】

売店のレジは、商品データ保持手段より商品データを読み取る。レジが読み取った情報とコイルデータは、送受信装置からホストへ送信される。案内所は、入場者がキャンセルを希望した場合や待ち時間の問い合わせがある場合に用いられる。退園窓口には、売店で購入した商品の商品データや、園内で利用した金額が送信される。

【００４８】

尚、ホストと入園・退園ゲート、入園・退園窓口、パッキングセンター、アトラクション、売店、案内所、掲示板の間は図１に示すようにケーブルで接続する場合と図２に示すようにアンテナを設置して無線で接続する場合が考えられる。

【００４９】

図３を用いて遊園地全体の構成を説明する。

【００５０】

本遊園地は各施設から受信した情報を蓄え、制御する中央管理局と、中央管理局に有線または無線により接続し情報の送受信を行っているアトラクション、売店、窓口、案内所、掲示板等から構成されている。

【００５１】

本システムによる第１の効果として、特定の施設への来場者に携帯させるメッセージ受信

手段に制御手段が受信したデータに基づいてデータベースを検索し対応するメッセージを前記受信手段に表示することがあげられる。

【００５２】

図２６において、入園者１が受け取るトランスポンダーを１－１とする。本例では、トランスポンダーとしたが、他に電子コイル、磁気カード、ＩＣ、バーコード等が考えられる。受付に設置される読み取り装置を４－１、書き込み装置を４－２とする。中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。

【００５３】

入園時、入園者は先ず受付でマークシートに個人データ（氏名（２６０１－１）、住所（２６０１－２）、年齢（２６０１－３）、性別（２６０１－４）、職業（２６０１－５）、ＴＥＬ－Ｎｏ．（２６０１－６））を記入（２６０１）する。これは、園内で乗り物の予約や買い物を行う時に使用するトランスポンダーとデータベースに登録するためのデータである。入園者は記入したマークシートを提出し（２６０２）、読み取り装置（４－１）にデータ入力（２６０３）される。入力された個人データはホスト（３－２）に送信（２６０４）され、ホストで個人データが受け付けられる（２６０５）。個人データ（氏名（２６０１－１）、住所（２６０１－２）、年齢（２６０１－３）、性別（２６０１－４）、職業（２６０１－５）、ＴＥＬ－Ｎｏ．（２６０１－６））は、データベース（３－３）に送信（２６０６）され、それぞれ個人データベース（図３１）の個人データ（氏名（１００３）、住所（１００４）、年齢（１００５）、性別（１００６）、職業（１００７）、ＴＥＬ－Ｎｏ．（１００８））にデータ登録（２６０６－１）される。又ホストは、受信した個人データをコイル用データ（氏名（２７０３）、コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））に構築（２６０７）し、書き込み装置（４－２）に構築したデータを送信（２６０８）する。データを受け取った書き込み装置は、トランスポンダー（１－１）に情報の書き込み（２６０９）を行い、トランスポンダーの登録が完了（２６１０）する。

【００５４】

図２７において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。本例では、文字表示ページャーとしたが、他に音声表示ページャー、携帯電話、ＰＨＳ、トランシーバー等が考えられる。入園ゲートを６－１とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。

【００５５】

入場者１は入園ゲートを通過（２７０１）する。トランスポンダー１－１は入園ゲート６－１から呼び出し（２７０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（２７０３）を送信する。そして、入園ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、入園ゲート通過（２７０３－３）、入園ゲート通過時間（２７０３－４）、アトラクション名（２７０３－５））がホスト３－２へ送信（２７０４）される。本例では、ゲート・ホスト間の送信手段として有線を用いたが、無線での送信も考えられる。

【００５６】

そして、トランスポンダーの認証（２７０５）が行われる。認証方法は、図３４で示す。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して、等しければ認証Ｏ．Ｋ．となりＹへ、違うときは認証Ｎ．Ｇ．でＮとなる。Ｎの時、メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）と設定（３４０４）される。以上で認証を終了する。認証ＮＧの時は、メッセージ作成（２７０８）へ進む。メッセージ作成を図２１を用いて説明する。メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．０２とペ

ージャーＮｏ．（１２２８）を設定（２０００）する。ホストはメッセージ（２０００）送信命令（２７０９）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２０００）を送信（２７１０）する。ページャーはメッセージ（２０００）を表示（２７１１）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２０００）はニンショウＮＧと表示される。一方、図２７で認証ＯＫの時は、認証につづいて登録（２７０６）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、入園ゲート通過（２７０３－３）、入園ゲート通過時間（２７０３－４）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図２６）の入園時間（１００９）の書き込み（３６０２）を行う。ホストは、メッセージコード＝入場判定Ｙ（１９０４－３）を設定（２７０７）する。ホストは、メッセージを作成（２７０８）する。メッセージ作成を図２１を用いて説明する。メッセージコード＝入場判定Ｙ（２１０４－３）の時、ホストはデータベースのメッセージＮｏ．０１とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００４－３）する。ホストはメッセージ（２００４－３）送信命令（２７０９）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００４－３）を送信（２７１０）する。ページャーは、図２０に従いメッセージ（２００４－３）を表示（２７１１）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００４－３）はＷＥＬＣＯＭＥ　と表示される。入園者１は入園（２７１２）となる。

【００５７】

本システムによる第２の効果として、入場者が入園する際、入園ゲート通過時に認証を行うことにより、無断で入園する事を防止できることが、あげられる。

【００５８】

図２８において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている予約ゲートを２－１とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図２８を用いて入場予約の動作を説明する。

【００５９】

入園者１がアトラクション１の入場を希望する場合、先ず予約ゲート２－１を通過（２８０１）する。トランスポンダー１－１は予約ゲート２－１から呼び出し（２８０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（２８０３）を送信する。そして、予約ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、予約ゲート通過（２７０３－６）、予約ゲート通過時間（２７０３－７）、アトラクション名（２７０３－５））がホスト３－２へ送信（２８０４）される。ホストではトランスポンダーの認証（２８０５）が行われる。認証方法は、図３４で示す。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して、等しければ認証Ｏ．Ｋ．となりＹへ、違うときは認証Ｎ．Ｇ．でＮとなり予約中止（３４０４）となる。認証ＮＧの時、メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）と設定（３４０４）される。以上で認証を終了する。認証がＮＧで判定がＮ（２８０５－１）のとき、メッセージ作成（２８０６）へ進む。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．０２とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２０００）する。ホストはメッセージ（２０００）送信命令（２８０７）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（１９００－１）を送信（２８０８）する。ページャーは図２５に従い、メッセージ（２０００）を表示（２８０９）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２０００）はニンショウＮＧと表示され、予約はストップとなる（２８０９－１）。認証ＯＫでＹ（２８０５－１）の時、次に、入場者１の予約数を確認（２８１０）する。これは、１

人当たりの予約数を５個までとするためである。予約数確認を図３７を用いて説明する。先ず、ホストはデータベースに個人データ読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））を送信（３７０１）し、データベースから個人データを受信（３７０２）する。次に、ホストは個人データベースのアトラクション登録情報（予約時間１０２１と出口時間１０２４、予約時間１０２６と出口時間１０２９、・・・）を調べ、予約数を確認（３７０３）する。予約時間が記載されているが、出口時間が記載されていないアトラクション数を数え、４以下の場合は予約を受け付け予約数確認Ｙへ進む。しかし、予約数が４より大きいつまり５の場合は予約不可となる。その場合、予約数確認Ｎとなり、メッセージコード＝予約オーバー（１９０６）（３７０４）を設定する。以上で予約数確認を終了する。予約数確認でＹの時、重複登録判定（２８１１）を行う。重複登録判定は、図３８を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データベース読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３８０１）を送信し、データベースから個人データベース内のアトラクション登録情報（３８０２）を受信する。そして、同一アトラクションを登録済みかどうか判定（３８０３）する。判定はアトラクション登録情報のアトラクション名（１０２０，１０２５，１０３０・・・１２１０，１２１５）をサーチし、登録済みの場合Ｙ、未登録の場合Ｎとなる。Ｙの時出口ゲートを未通過であるかどうか判定（３８０４）する。出口ゲート２－４を未通過の時はＹへ、出口ゲートを通過している時はＮへ進む。登録済みで出口ゲート未通過のとき、つまり重複登録の時、メッセージコード＝重複登録（１９０１）と設定（３８０８）される。一方、未登録あるいは登録済みでも出口ゲートを通過しているときは、登録（３８０５）を行う。登録は図３６で示す。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、予約ゲート通過（２７０３－６）、予約ゲート通過時間（２７０３－７）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースのアトラクション登録情報にアトラクション名（２７０３－５）と予約ゲート通過時間（２７０３－７）の書き込み、又アトラクションデータベースにコイルＮｏ．（２７０３－１）と予約ゲート通過（２７０３－６）の書き換え（３６０２）を行う。ホストは数２に示された計算（３８１０）を行い入場ＯＫの判断を行う。

【００６０】

（数２）

（待ちＮｏ．）－（乗車ゲート通過人数）＜（アトラクションあたりの収容人数）例として、アトラクション１の収容人数を１５０人とする。数２の結果、Ｙなら入場Ｏ．Ｋ．と判定する。判定がＹの時、登録（３８１１）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへ新たな入場Ｏ．Ｋ．者である入場者１のデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースはアトラクションデータの入場ＯＫ呼び出しを書き換える（３６０２）。そして、ホストは、メッセージコード＝入場ＯＫ（１９０３）と設定（３８１３）する。一方、計算（３８１２）の結果Ｎとなると、次に、ホストは待ち時間設定（３８０６）を行う。待ち時間設定を図３９を用いて説明する。ホストはアトラクションデータ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（３９０１）をデータベースに送信し、データベースからアトラクションデータ（待ちＮｏ．（３９０２－３）、入口ゲート通過人数（３９０２－４））（３９０２）を受信する。ホストは数１に示された計算を行い待ち時間を求める。

【００６１】

（数１）

（待ち時間）＝

（（待ちＮｏ．）－（入口ゲート通過人数））／（単位時間当たりの乗車人数）

例として、入場者１がアトラクション１の入場予約を行い、待ちＮｏ．＝２００１に登録されたとして待ち時間を計算する。待ちＮｏ．＝２００１、入口ゲート通過人数＝１５０８、単位時間当たりの乗車人数＝１５人／分（３９０３－１）と定めると、数１の計算により入場者１の待ち時間は３２分と求められる。これよりメッセージＮｏ．設定（３９０

４）は図１７よりメッセージＮｏ．＝４５となる。次に、ホストはメッセージコード＝登録（１９０２）と設定（３８０７）する。以上で重複登録判定を終了する。次に、図２８に戻りメッセージ作成（２８１２）を行う。メッセージ作成は図１９で示す。予約数確認（２８１０）で判定がNの時、つまりメッセージコード＝予約オーバー（１９０６）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．１５，Ｎｏ．１６，Ｎｏ．１７とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（１９０２－１）する。ホストはメッセージ（２００６）送信命令（２８１３）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００６）を送信（２８１４）する。ページャーはメッセージ（２００２）を表示（２８１５）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００６）はヨヤクハ5コマデデス　コレイジョウ　ヨヤクデキマセンと表示される。一方、重複登録判定（２８１１）でメッセージコード＝重複登録（１９０１）の時、ホストはメッセージを作成（２８１２）する。メッセージ作成は図１９で示す。ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．５とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００１）する。ホストはメッセージ（２００１）送信命令（２８１３）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００１）を送信（２８１４）する。ページャーは、図２０に従いメッセージ（２００１）を表示（２８１５）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００１）はトウロクズミデスと表示される。又、重複登録判定（２８１１）でメッセージコード＝登録（１９０２）、待ち時間コード＝４５の時、ホストはメッセージを作成（２８１２）する。メッセージ作成は図１９で示す。メッセージデータベースのメッセージＮｏ．０３，Ｎｏ．４５，Ｎｏ．０４とページャーＮｏ．（１２２８）を設定１９０２－１する。ホストはメッセージ（２００２）送信命令（２８１３）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００２）を送信（２８１４）する。ページャーはメッセージ（２００２）を表示（２８１５）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００２）はトウロクシマシタ　４０プン　マチデスと表示される。本例では待ち時間を表示したが、予想入場時刻を示すことも可能である。

【００６２】

入園者１は入場待ち（２８１６）の間、入場のために並ぶ必要がなく他のアトラクションを楽しんだり、買い物をすることができる。

【００６３】

本システムによる第３の効果として、入場者が各アトラクションのゲートを通過する際にホストへ送信される情報を基に、アトラクションごとに予約状況・入場状況・乗車状況・退場状況という人の流れを把握できることが、あげられる。第４の効果として、希望するアトラクションに入場するために長時間行列を作って並ぶ必要がなく、各アトラクションの予約ゲート（トランスポンダー読み取り装置設置場所）を通過するだけで予約が完了することが、あげられる。第５の効果として、入場者がアトラクションの入場を予約したときに、ホストコンピューターがデータベース内の情報を介して入場までの待ち時間を算出できることが、あげられる。第６の効果として、アトラクション入場予約が予約ゲートを通過するだけで完了するので、予約時に並ぶ為の膨大なスペースを必要としないことが、あげられる。第７の効果として、未だ入場していないにも関わらず、同一アトラクションを繰り返して予約してきたとき、重複登録であることを判定して２回目以降の予約を受け付けないことが、あげられる。第８の効果として、アトラクションの予約時に待ち時間をページャーに表示することが、あげられる。第９の効果として、予約数を制限する機能を有することが、あげられる。

【００６４】

図２９において、入園者Ｘが所持するトランスポンダーをＸ－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている入口ゲートを２－２とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図２９を用いて入場の動作を説明する。

【００６５】

入園者１が入場待ち（２８１５）の間、ホストは入場Ｏ．Ｋ．判定を行っている。入場Ｏ．Ｋ．判定は図２９で示す。ホストはデータベースへ一定時間毎に、アトラクションデータ要求（アトラクション名（２７０３－５））（２９０１）を行い、データベースはホストへアトラクションデータ（待ちＮｏ．（２９０２－１）、コイルＮｏ．（２９０２－２）、乗車ゲート通過人数（２９０２－３））（２９０２）を送信する。

【００６６】

入場者ｘが入口ゲートを通過（２９０３）したら、入口ゲートはトランスポンダーへ呼び出し要求（２９０４）を送信し、コイルから呼び出し応答（２９０５）を受信してホストへコイルデータ（コイルＮｏ．（２９０６－１）、鍵コード（２９０６－２）、入口ゲート通過（２９０６－３）、入口ゲート通過時間（２９０６－４）、アトラクション名（２９０６－５））を送信（２９０６）する。ホストで入場者ｘの認証（２９０７）が行われる。認証を図３４を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２９０６－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（２９０６－６）、鍵コード（２９０６－７））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２９０６－２）とデータベースより読み出した鍵コード（２９０６－７）を比較（３４０３）して、等しければ認証Ｏ．Ｋ．となりＹへ、違うときは認証Ｎ．Ｇ．となる。認証Ｏ．Ｋ．の時、次にホストは登録を行う。登録（２９０８）を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２９０６－１）、入口ゲート通過（２９０６－３）、入口ゲート通過時間（２９０６－４）、アトラクション名（２９０６－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースのアトラクション登録情報に入口ゲート通過時間とアトラクションデータベースに入口ゲート通過の書き換え（３６０２）を行う。次に、ホストは新たな入場ＯＫ者を設定するためにデータベースへアトラクションデータ要求（２９０９－１）を行う。データベースからホストにアトラクションデータ（待ちＮｏ．（２９０９－３）、コイルＮｏ．（２９０９－４）、入口ゲート通過人数（２９０９－５）、入場Ｏ．Ｋ．呼び出し（２９０９－６））（２９０９－２）を送信する。ホストは入場者が入口ゲートを通過するごとに、新たな入場Ｏ．Ｋ．者を１人追加（２９１０）する。次に登録（２９１１）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへ新たな入場Ｏ．Ｋ．者のデータ（コイルＮｏ．（２９１０－１）、アトラクション名（２９１０－５））を送信（３６０１）すると、データベースはアトラクションデータの入場ＯＫ呼び出しを書き換える（３６０２）。ホストは入場者１のコイルＮｏ．（１２２８）と新たな入場Ｏ．Ｋ．者のコイルＮｏ．（２９１０－１）の一致を調べる（２９１２）。Ｙなら入場Ｏ．Ｋと判定され、一方Ｎならば入場者１のコイルＮｏ．（１２２８）と新たな入場ＯＫ者のコイルＮｏ．（２９１０－１）が一致するまで上記の行程を繰り返す。入場がＯ．Ｋ．と判定されると、メッセージコード＝入場ＯＫ（１９０３）と設定（２９１３）される。次にホストはメッセージを作成（２９１４）する。メッセージ作成は図１９に示す。メッセージコード＝　入場ＯＫ（１９０３）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．２１，Ｎｏ．０６，Ｎｏ．０９，Ｎｏ．１０とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００３）する。次に、送信ＯＫ判定（２９１５）を行う。送信ＯＫ判定は図４０を用いて説明する。これは、入場ＯＫ者が受信しても良い場所にいるかどうか確かめる判定である。先ず、ホストはデータベース（３－３）に個人データ読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））を行い（４００１）、データベースからホストに個人データ（４００２）が送信される。個人データを受信すると、アトラクション、売店あるいはレストラン内に存在しているか確かめる（４００３）。そのために、個人データ（入口時間１０２２と出口時間１０２４、入口時間１０２７と出口時間１０２９、・・・入口時間１２２０と出口時間１２２１、・・・入口時間１４２０と出口時間１４２１、・・・）を調べる。入口時間が記入されているのに出口時間が記入されていない場合、アトラクション、売店あるいはレストラン内に存在しているという事になり、判定はＹとなる。出口時間も記入されている場合、判定はＮとなる。もし、Ｙならば（４００３）の判定がＮになるまで繰り返す。（４００３）の判定がＮになると送信ＯＫ（４００４）と

なる。送信ＯＫになると、ホストはメッセージ（２００３）送信命令（２９１６）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００３）を送信（２９１７）する。ページャーは図２０に従い、メッセージ（２００３）を表示（２９１８）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００３）はアトラクション１　ニュウジョウＯＫ　イリグチゲートニ　キテクダサイと表示される。

【００６７】

本システムによる第１０の効果として、ホストコンピューターが予約者が入場可能かどうか判定出来ることが、あげられる。第１１の効果として、入場可能と判定された予約者に、ホストが入場可能になった事を予約者が所持しているページャー（例として、文字表示ページャー、音声表示ページャー、携帯電話、ＰＨＳ、トランシーバー等が考えられる）に送信し、入場許可メッセージを表示することが、あげられる。第１２の効果として、入場者がアトラクション入場中（入口ゲート通過後、出口ゲートを通過するまでの間）と売店内、レストラン内にいる間、ホストからページャーへの発信はストップすることが、あげられる。

【００６８】

図３０において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている入口ゲートを２－２とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２とする。以下、図３０を用いて入場の動作を説明する。

【００６９】

メッセージを受信した入園者１は入口ゲートを通過（３００１）する。トランスポンダーは入口ゲートから呼び出し（３００２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）を送信（３００３）する。コイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、入口ゲート通過（２７０３－８）、入口ゲート通過時間（２７０３－９）、アトラクション名（２７０３－５））はホストへ送信（３００４）される。ホストは認証（３００５）を行う。認証方法は、図３４で示す。ホスト３－２はデータベース３－３へ鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２）が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して、等しければ認証Ｏ．Ｋ．となりＹへ、違うときは認証Ｎ．Ｇ．でＮとなり入場禁止となる。次に、入場判定（３００６）を行う。入場判定を図４１を用いて説明する。ホストはデータベースへアトラクションデータ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（４１０１）を送信し、データベースからアトラクションデータ（４１０２）を受信する。入園者１のコイルＮｏ．（２７０３－１）が入場Ｏ．Ｋ．呼び出し者のコイルＮｏ．に含まれているかを判定（４１０３）する。一致の時入場ＯＫとなりＹへ、不一致の時入場ＮＧとなりＮへ進む。Ｎの場合入園者１がアトラクション１の予約者かどうか判定する（４１０４）。予約者であるならＹ１へ、予約者でないならＮ１へ進む。入場判定（３００６）でＹ１の時、ホストは待ち時間設定（４１０５）を行う。待ち時間設定を図３９を用いて説明する。ホストはアトラクションデータ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（３９０１）をデータベースに送信し、データベースからアトラクションデータ（待ちＮｏ．（３９０２－３）、入口ゲート通過人数（３９０２－４））（３９０２）を受信する。ホストは数１に示された計算を行い待ち時間を求める。

【００７０】

（数１）

（待ち時間）＝

（（待ちＮｏ．）－（入口ゲート通過人数））／（単位時間当たりの乗車人数）

アトラクション１の場合、単位時間当たりの乗車人数＝１５人／分（３９０３－１）、入場者１の待ち時間が８分とするとメッセージコード＝４２（４１０６）となる。次に、メ

ッセージコード＝入場判定Ｙ（１９０４－１）が設定（４１０７）され、ブザー鳴動＝ＯＮ（４１０８）となる。一方、入場判定がＮ１の時、メッセージコード＝入場判定（１９０４－２）と設定（４１０９）され、ブザー鳴動＝ＯＮ（４１１０）となる。入場判定（４１０３）でＹの時、ホストは登録（４１１１）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、入口ゲート通過（２７０３－８）、入口ゲート通過時間（２７０３－９）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースのアトラクション登録情報に入口ゲート通過時間（２７０３－９）の書き込み、又アトラクションデータベースに入口ゲート通過（２７０３－８）の書き換え（３６０２）を行う。ホストは、メッセージコード＝入場判定Ｙ１（１９０４－３）（４１１２）とブザー鳴動＝ＯＦＦ（４１１３）を設定する。以上で入場判定を終了する。図３０に戻り、入場判定がＹ１（メッセージコード＝１９０４－１）の時、ホストはメッセージ（１９０４－１）を作成（３００７）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝入場判定Ｙ１（１９０４－１）、メッセージコード＝４２の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．４２，Ｎｏ．０４，Ｎｏ．１３とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００４－１）する。ホストはメッセージ（２００４－１）送信命令（３００８）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００４－１）を送信（３００９）する。ページャーは図２０に従い、メッセージ（２００４－１）を表示（３０１０）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００４－１）は１０プン　マチデス　オマチクダサイ　と表示される。その時、ブザー鳴動＝ＯＮ（３０１１）であるから、ブザー鳴動命令（３０１２）が入口ゲートに送信され、ブザー鳴動（３０１３）する。ブザー鳴動すると、入口ゲートの係員が入場をストップする。一方、入場判定がＮ１（メッセージコード＝１９０４－２）の時、ホストはメッセージ（１９０４－２）を作成（３００７）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．１２，Ｎｏ．１１とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００４－２）する。ホストはメッセージ（２００４－２）送信命令（３００８）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００４－２）を送信（３００９）する。ページャーは図２０に従い、メッセージ（２００４－２）を表示（３０１０）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００４－１）はミトウロクデス　ニュウジョウキンシ　と表示され入場規制が行われる。ブザー鳴動＝ＯＮ（３０１１）であるから、ブザー鳴動命令（３０１２）が入口ゲートに送信され、ブザーが鳴動（３０１３）する。ブザー鳴動すると、入口ゲートの係員が入場をストップする。本例では入場規制にブザーを用いたが、他に駅の改札口のようにゲートをブロックする等が考えられる。入場判定がＹ（メッセージコード＝１９０４－３）の時、ホストはメッセージを作成（３００７）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．０１とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００４－３）する。ホストはメッセージ（２００４－３）送信命令（３００８）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００４－３）を送信（３００９）する。ページャーはメッセージ（２００４－３）を表示（３０１０）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００４－３）はＷＥＬＣＯＭＥ　と表示される。そのとき、ブザー鳴動＝ＯＦＦ（３０１１）であるからブザーは鳴動せず、入場者１は入場（３０１４）となる。

【００７１】

本システムによる第１３の効果として、入場を許可されていない人物が入場を試みたとき、規制（例としてブザー、ゲートをブロックする等が考えられる）をかけることが、あげられる。第１４の効果として、各アトラクションの入口ゲート通過時に入場を許可された者かどうか判定することにより、割り込みを防止できることが、あげられる。

【００７２】

図３１において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている乗車ゲートを２－３とする。中央管理局に設置

されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図３１を用いて乗車の動作を説明する。

【００７３】

つづいて、入場者１は乗り物ゲートを通過（３１０１）する。トランスポンダー１－１は乗車ゲート２－３から呼び出し（３１０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（３１０３）を送信する。そして、予約ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、乗車ゲート通過（２７０３－１０）、乗車ゲート通過時間（２７０３－１１）、アトラクション名（２７０３－５））がホスト３－２へ送信（３１０４）される。そして、トランスポンダーの認証（３１０５）が行われる。認証を図３４を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して認証される。以上で認証を終了する。登録は図３６で示す。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、乗車ゲート通過（２７０３－１０）、乗車ゲート通過時間（２７０３－１１）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）のアトラクション登録情報１に乗車時間（１０２３）の書き込み、又アトラクションデータベース（図１４）の乗車ゲート通過を’０’から’１’に書き換える（３６０２）。

【００７４】

そして、入場者１はアトラクション１に乗車（３１０７）する。

【００７５】

図３２において、入園者１が所持する電子コイルを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている出口ゲートを２－４とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図３２を用いて退場の動作を説明する。

【００７６】

最後に出口ゲートを通過（３２０１）する。電子コイル１－１は出口ゲート２－４から呼び出し（３２０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（３２０３）を送信する。そして、予約ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、出口ゲート通過（２７０３－１２）、出口ゲート通過時間（２７０３－１３）、アトラクション名（２７０３－５））がホスト３－２へ送信（３２０４）される。そして、電子コイルの認証（３２０５）が行われる。認証を図３４を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して認証される。以上で認証を終了する。登録は図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、出口ゲート通過（２７０３－１２）、出口ゲート通過時間（２７０３－１３）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）のアトラクション登録情報１に出口時間（１０２４）の書き込み、又アトラクションデータベース（図１４）の出口ゲート通過を’０’から’１’に書き換える（３６０２）。以上で、図３２の説明を終了する。

【００７７】

図３３において、中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。退園受付のオペレーターを５－１、コンピューターを５－２、プリンタ

ーを５－３とする。

【００７８】

入園者１は退園時、トランスポンダー１－１とページャー１－２をオペレーター５－１に返却（３３０１）する。オペレーターはコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１））を入力（３３０２）する。コンピューターからホストへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１））が送信（３３０３）される。ホストは認証（３３０４）を行う。認証を図３４を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して認証される。以上で認証を終了する。次に登録（３３０５）を行う。登録は図３６で示す。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、退園窓口受付（２７０３－１４）、退園窓口受付時間（２７０３－１５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースのアトラクション登録情報に退園窓口受付時間（２７０３－１５）の書き込み、又アトラクションデータベースに退園窓口受付（２７０３－１４）の書き換え（３６０２）を行う。登録を終えると、ホストはデータベースに個人データ読み出し要求（３３０６）を送信し、個人データ（３３０７）を受信する。受信した個人データはプリンタ５－３に送信（３３０８）され、個人データシート（図２２）が作成（３３０９）される。個人データシートはオペレーターから入園者１に渡され（３３１０）、入園者はシートを受け取る（３３１１）。既に退園窓口受付前に、ホストからパッケージセンターに買い物情報（３３１２）が送信されていて、入場者が購入した品物のパッキング（３３１３）は、終わっている。次に、利用金額を計算（３３１４）する。ホストは、個人データベース内のレストラン情報と買い物情報の金額（１２２４，・・・）を加算し、利用金額を算出する。又、ホストは入園者がフリーパスを所有しているかどうか判断する。図１３に示した個人データベースを検索し、清算方法が入退園のフリーパス（１０１３）それとも個別料金（１０１４）であるかを調べ、個別料金で支払うことになっていたとする。その場合、アトラクション登録情報の出口時間（１０２４，・・・）が記入されているアトラクションの料金を加算し、利用金額に加える。ホストは、計算結果をオペレーターに通知（３３１５）し、オペレーターより園内で使用した金額が表示（３３１６）される。入園者がお金を支払う（３３１７）と、オペレーターは、コンピューターに“支払済”と入力（３３１８）する。入園時に銀行の口座番号又はクレジットカード番号を登録しておけば、清算は、銀行又はクレジットカードで行うことも出来る。すると、コンピューターからホストにデータ（コイルＮｏ．（３３１９－１）、支払済（３３１９－２））が送信（３３１９）され、ホストは登録（３３２０）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへデータ（コイルＮｏ．（３３１９－１）、支払済（３３１９－２））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）の支払済（１０１１）に書き込み（３６０２）を行う。入園者は、お土産を受け取り（３３２１）、退園（３３２２）となる。

【００７９】

本システムによる第１５の効果として、各入場者の施設内の売店における買い物の支払いやレストランでの食事代を、中央管理局のデータベース内に登録しておくことにより、退園時に一括して支払いが出来ることが、あげられる。第１６の効果として、各入場者が売店にて購入した品物の品名、数量を中央管理局のデータベース内に登録し、退園受付窓口に送信しておくことにより、退園時に一括して品物を受け取りが出来ることが、あげられる。第１７の効果として、当日、園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成されている個人データを出力し、来場者に個人データシートを差し上げることが、あげられる。第１８の効果として、客が購入した品名をホストからパッキングセンターに連絡し、品物のパッキングが行われることが、あげられる。第１９の効果として、施設内で利用した料金を一括して銀行又はクレジットカードで支払うことが、あげられ

る。
【００８０】
データベース内のデータを年齢別に分析することにより、施設の管理者が、来場者の人気利用施設を年齢別に把握することが出来る。
【００８１】
年齢別に分析出来る理由は、各入場者の個人データ（氏名、年齢、性別など）を入園時に登録するため、各アトラクションへの入退場、売店で購入した品物、レストランでの食事のメニューをトランスポンダーに内蔵している個人認証番号と共にホストへ送信し、個人別にデータベースに登録している為である。
【００８２】
分析は、１０歳未満、１０代、２０代、３０代、４０代、５０代以上と各年代ごとに利用した施設名を検索し、各施設ごとの利用回数を求めてグラフ化することにより行われる。具体例は、図２３に示す。図２３より、アトラクション８の人気が最も高く、アトラクション４の人気が低いことが分かる。
【００８３】
性別による分析も、上記と同様の方法で行うことが出来る。
【００８４】
本システムによる第２０の効果として、制御手段が記憶手段に記憶されているデータを性別・年齢別に分類することにより、施設の管理者が、来場者の性別・年齢別に利用施設名を管理することが、あげられる。
【００８５】
図４３において、中央管理局に設置されているホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。
【００８６】
アトラクションの課金方法は、２種類が考えられる。１つは、乗り放題のフリーパスチケット（１日中乗り放題のチケットと、夕方以降乗り放題のチケットが考えられる）、もう１つは、アトラクションごとに個別に課金する方法である。以下、個別に課金する方法を図４３を用いて説明する。
【００８７】
先ずホストにアトラクション料金の問い合わせ（４３０１）がある。するとホストはデータベースに個人データ読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（４３０２）を行い、データベースからホストに個人データ（４３０３）が送信され、ホストは認証（４３０４）を行う。次に、入園者がフリーパスを所有しているか判定（４３０５）する。そのために、個人データ内の入退園のフリーパス（１０１３）と個別料金（１０１４）を調べ、個別料金で支払うことになっているとする。すると判定でＮに進み、アトラクション登録情報内で出口時間（１０２４・・・）が記入されているアトラクションの料金を加算し、アトラクションの料金を計算（４３０６）する。判定（４３０５）がＹの場合、計算する必要はない。計算完了（４３０７）となる。
【００８８】
本システムによる第２１の効果として、アトラクションごとに個別課金が可能で、退園するときに一括して清算することが、あげられる。
【００８９】
図４４において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。売店１に設置されている入口ゲートを２－２、出口ゲートを２－４、レジを８とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２とする。顧客が購入した品物のパッキングを行うパッキングセンターを５－４とする。以下、図４４を用いて買い物を説明する。
【００９０】
入場者１は売店１に入場を済ましており、買い物（４４０１）をする。入場者は購入する商品が記載されている商品カード（４４０２）をレジに手渡す。商品カードには、品名、

価格、商品番号が記載されている。レジで商品番号が入力（４４０３）される。レジは合計金額を表示（４４０４）し、客の確認をとる。確認を終えると、トランスポンダー１－１はレジから呼び出し（４４０５）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（４４０６－１）、鍵コード（４４０６－２））（４４０６）を送信する。そして、レジからデータ（コイルＮｏ．（４４０６－１）、鍵コード（４４０６－２）、品名（４４０６－３）、金額（４４０６－４）、売店名（４４０６－５））がホスト３－２へ送信（４４０７）される。そして、トランスポンダーの認証（４４０８）が行われる。認証を図３５を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（４４０６－１））（３５０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３５０２－１）、鍵コード（３５０２－２））が送信（３５０２）される。コイルデータ内の鍵コード（４４０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３５０２－２）を比較（３５０３）して認証される。以上で認証を終了する。次に登録（４４０９）が行われる。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（４４０６－１）、品名（４４０６－３）、金額（４４０６－４）、売店名（４４０６－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースに品名と金額を書き込む（３６０２）。登録が終了すると、ホストは当日支払った合計金額を計算（４４１０）する。計算を図４２を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データベース読み出し要求（コイルＮｏ．（４４０６－１））（４２０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データが送信（４２０２）される。ホストは、レストラン情報内の金額（１２２３，１２２５・・・）と買い物情報内の金額（１４２３，１４２５・・・）を加算し、当日支払った合計金額を求める（４２０３）。ホストは、メッセージコード＝合計金額（１９０５）を設定（４４１１）する。ホストは、メッセージを作成（４４１２）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝合計金額（１９０５）の時、ホストはデータベースのメッセージＮｏ．０７，Ｎｏ．１４，Ｎｏ．１５，＊７８００，Ｎｏ．０８とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００５）する。（合計金額は、＊ｘｘｘと設定する。（ｘｘｘは金額））ホストはメッセージ（２００５）送信命令（４４１３）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００５）を送信（４４１４）する。ページャーは、図２０に従いメッセージ（２００５）を表示（４４１５）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００５）はアリガトウゴザイマス　ホンジツノゴウケイハ　７８００　エンデス　と表示される。入園者１は出口ゲートを通過（４４１６）する。トランスポンダー１－１は出口ゲート２－４から呼び出し（４４１７）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（４４０６－１）、鍵コード（４４０６－２））（４４１８）を送信する。そして、出口ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（４４０６－１）、鍵コード（４４０６－２）、売店名（４４０６－５）、　出口ゲート通過（４４０６－６）、出口ゲート通過時間（４４０６－７））がホスト３－２へ送信（４４１９）される。そして、トランスポンダーの認証（４４２０）が行われる。認証を図３５を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（４４０６－１））（３５０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３５０２－１）、鍵コード（３５０２－２））が送信（３５０２）される。コイルデータ内の鍵コード（４４０６－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３５０２－２）を比較（３５０３）して認証される。以上で認証を終了する。次に登録（４４２１）が行われる。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（４４０６－１）、売店名（４４０６－５）、出口ゲート通過（４４０６－６）、出口ゲート通過時間（４４０６－７））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）の買い物情報１に出口時間（１４２１）を書き込む（３６０２）。買い物の清算も含め、園内で利用した料金は、退園時に退園窓口でまとめて清算する。尚、清算方法は、（図３３　退園）で説明する。

【００９１】

入場者１は買い物を終えて、園内で過ごす（４４２２）。その間に、ホストからパッキングセンター（５－４）に個人データが送信（４４２３）され、パッキングセンターで購入した品物のパッキングが行われる（４４２４）。入場者は、購入した品物を退園時に受け取る。

【００９２】

本システムによる第２２の効果として、各入場者の施設内の売店における買い物の支払いやレストランでの食事代を、中央管理局のデータベース内に登録しておくことにより、退園時に一括して支払いが出来ることが、あげられる。第２３の効果として、売店、レストランでお金を支払う必要がないことが、あげられる。第２４の効果として、客が購入した品名をホストから退園窓口に連絡し、窓口で品物のパッキングが行われることが、あげられる。第２５の効果として、各入場者が売店にて購入した品物の品名、数量を中央管理局のデータベース内に登録し、退園受付窓口に送信しておくことにより、退園時に一括して品物を受け取りが出来ることが、あげられる。第２６の効果として、買い物など園内で利用した金額をページャーに表示することが、あげられる。

【００９３】

図４５において、入場者１が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。レストランに設置されるコイルデータ読み取り装置を４５－１、メニュー番号の入力装置を４５－２、送信装置を４５－３とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２とする。以下、図４５を用いてレストランでの食事を説明する。

【００９４】

入場者は、レストランの入場を済ましており、店員に注文（４５０１）を伝える。すると、店員は注文を受けた品目に対応するメニュー番号を入力する（４５０２）。トランスポンダー１－１は読み取り装置から呼出（４５０３）を受信し、呼出応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））を送信（４５０５）する。送信装置は、データ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、メニュー番号（４５０４－１））をホストへ送信（４５０５）する。ホストは、トランスポンダーの認証を行う。認証を図３５を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３５０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３５０２－１）、鍵コード（３５０２－２））が送信（３５０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３５０２－２）を比較（３５０３）して認証される。以上で認証を終了する。次に登録（４５０７）が行われる。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、メニュー番号（４５０４－１）、レストラン名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースに品名と金額を書き込む（３６０２）。登録が終了すると、ホストは当日支払った合計金額を計算（４５０８）する。計算を図４２を用いて説明する。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データベース読み出し要求（コイルＮｏ．（４２０３－１））（４２０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データが送信（４２０２）される。ホストは、レストラン情報内の金額（１２２３，１２２５・・・）と買い物情報内の金額（１４２３，１４２５・・・）を加算し、当日支払った合計金額を求める（４２０３）。ホストは、メッセージコード＝合計金額（１９０５）を設定（４５０９）する。ホストは、メッセージを作成（４５１０）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝合計金額（１９０５）の時、ホストはデータベースのメッセージＮｏ．０７，Ｎｏ．１４，Ｎｏ．１５，＊７８００，Ｎｏ．０８とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００５）する。（合計金額は、＊ｘｘｘと設定する。（ｘｘｘは金額））ホストはメッセージ（２００５）送信命令（４５１１）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００５）を送信（４５１２）する。ページャーは、図２０に従いメッセージ（２００５）を表示（４５１３）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００５）はアリガ

トウゴザイマス　ホンジツノゴウケイハ　７８００　エンデス　と表示される。
【００９５】
レストランでの食事代も含め、園内で利用した料金は、退園時に退園窓口でまとめて清算する。尚、清算方法は（図３３　退園）で説明する。
【００９６】
本システムによる第２７の効果として、各入場者の施設内の売店における買い物の支払いやレストランでの食事代を、中央管理局のデータベース内に登録しておくことにより、退園時に一括して支払いが出来ることが、あげられる。第２８の効果として、売店、レストランでお金を支払う必要がないことが、あげられる。第２９の効果として、客が購入した品名をホストから退園窓口に連絡し、窓口で品物のパッキングが行われることが、あげられる。第３０の効果として、各入場者が売店にて購入した品物の品名、数量を中央管理局のデータベース内に登録し、退園受付窓口に送信しておくことにより、退園時に一括して品物を受け取りが出来ることが、あげられる。第３１の効果として、買い物など園内で利用した金額をページャーに表示することが、あげられる。
【００９７】
図４６において、中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。園内に設置される掲示板を１０とする。
【００９８】
園内の数カ所に掲示板を設置する。これは、各アトラクションの待ち時間を表示する為である。以下、図４６を用いて、掲示板に待ち時間を表示するシステムの説明を行う。
【００９９】
ホストは、一定時間毎に待ち時間を計算し、掲示板に送信する。例として、１０分毎に待ち時間を計算して送信する場合を考える。１０分に１回待ち時間を計算するためにアトラクションデータ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（４６０１）を送信する。すると、データベースからホストへアトラクションデータ（４６０２）が送信される。
【０１００】
（待ち時間）＝（（待ちＮｏ．）－（入口ゲート通過人数））／（単位時間当たりの乗車人数）
この式、もしくは図２４に示した計算を行い待ち時間を計算（４６０３）する。
【０１０１】
例として、アトラクション１の待ち時間を計算する。最新の入場予約者の待ちＮｏ．＝２００１、入口ゲート通過人数＝１５０８、単位時間当たりの乗車人数＝１５人／分（３９０３－１）と定めると、数１によりアトラクション１の待ち時間は３２分と求められる。ホストは、図１７よりメッセージＮｏ．＝４５と設定（４６０４）する。次に、ホストは掲示板に待ち時間（メッセージＮｏ．＝４５）を送信（４６０５）する。掲示板は、アトラクション１の待ち時間を４０プンと表示（４６０６）する。表示例は図２１で示す。
【０１０２】
掲示板には待ち時間以外にも、悪天候による中断やアトラクション故障などの連絡事項を掲示することも考えられる。
【０１０３】
本システムによる第３２の効果として、掲示板に各アトラクションの待ち時間を表示することが、あげられる。
【０１０４】
図４７において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１とする。案内所に設置されている読み取り装置を９－１、オペレーターを９－２とする。中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図４７を用いて待ち時間と利用金額通知の動作を説明する。
【０１０５】
入園者１が待ち時間と利用金額の通知を希望する（４７０１）。先ず、案内所のオペレー

ターに通知希望を伝える。トランスポンダー１－１は読み取り装置９－１から呼び出し（４７０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（４７０３）を送信する。そして、読み取り装置からコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、通知希望（４７０４－１））がホスト３－２へ送信（４７０４）される。ホストではトランスポンダーの認証（４７０５）が行われる。次に、ホストは個人データとアトラクションデータの読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（４７０６）を行うと、データベースからホストへ個人データとアトラクションデータ（４７０７）が送信される。ホストは数１に示された計算を行い、待ち時間を計算（４７０８）する。

【０１０６】

（数１）

（待ち時間）＝

（（待ちＮｏ．）－（入口ゲート通過人数））／（単位時間当たりの乗車人数）

例として、入場者１のアトラクション１の待ち時間を計算する。アトラクションデータとコイルＮｏ．＝１２２８より待ちＮｏ．＝２００１、その時点の入口ゲート通過人数＝１５０８、単位時間当たりの乗車人数＝１５人／分（３９０３－１）と定めると、数１により入場者１の待ち時間は３２分と求められる。同様に、各アトラクションの待ち時間を計算する。次に、利用金額を計算（４７０９）する。ホストは、個人データベース内のレストラン情報と買い物情報の金額（１２２４，・・・）を加算し、利用金額を算出する。又、ホストは入園者がフリーパスを所有しているかどうか判断する。入退園のフリーパス（１０１３）と個別料金（１０１４）を調べ、個別料金で支払うことになっていたとする。その場合、アトラクション登録情報の出口時間（１０２４，・・・）が記入されているアトラクションの料金を加算し、利用金額に加える。

【０１０７】

以上で、入場者１の各アトラクションにおける待ち時間と利用金額の計算を終了する。次に、ホストからオペレーター９－２に待ち時間と利用金額　（４７１０）を通知し、オペレーターから入場者に待ち時間と利用金額　（４７１１）を通知する。以上で、待ち時間と利用金額の通知（４７１２）が完了する。

【０１０８】

又、コイルＮｏ．をホストコンピューターに送信することにより、アトラクションの予約とキャンセルを（予約）（キャンセル）の項で説明した手段と同様の手段で行うことが出来る。

【０１０９】

本システムの第３３の効果として、案内所で、来場者に施設入場までの待ち時間を通知することが、あげられる。第３４の効果として、案内所で、来場者が施設内で利用した合計金額を通知するということが、あげられる。第３５の効果として、案内所で、施設への入場予約を行うことが、あげられる。第３６の効果として、案内所で、施設への入場予約のキャンセルを行うことが、あげられる。

【０１１０】

図４８を用いてコンピューターの案内画面による問い合わせを説明する。入園者１が所持するトランスポンダーを１－１とする。案内用コンピューター設置場所に設置する読み取り装置を４８－１、コンピューターを４８－２とする。中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。

【０１１１】

入園者１が待ち時間の問い合わせを希望する（４８０１）。トランスポンダーは、読み取り装置４８－１から呼び出し（４８０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（４８０３）を送信する。そして、読み取り装置からコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、問い合わせ希望（４８０４－１））がホスト３－２へ送信（４８０４）される。次に、ホストは認証（４８０５）を行う。コンピューター（４８－２）は、案内項目（予約、キャンセ

ル、待ち時間の通知、ご利用金額の通知、アトラクションの情報、地図）を画面に表示（４８０６）する。入園者は画面上に表示されている案内を希望する項目をタッチして入力（４８０７）する。案内希望項目がコンピューターより、ホストに送信（４８０８）される。次に、ホストはアトラクションデータの読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（４８０９）を行うと、データベースからホストへアトラクションデータ（４８１０）が送信される。ホストは図２４に示された計算を行い、待ち時間を計算（４８１１）する。

【０１１２】

（数１）

（待ち時間）＝

（（待ちＮｏ．）－（入口ゲート通過人数））／（単位時間当たりの乗車人数）

例として、入場者１のアトラクション１の待ち時間を計算する。アトラクションデータとコイルＮｏ．＝１２２８より待ちＮｏ．＝２００１、その時点の入口ゲート通過人数＝１５０８、単位時間当たりの乗車人数＝１５人／分（３９０３－１）と定めると、数１により入場者１の待ち時間は３２分と求められる。同様に、各アトラクションの待ち時間を計算する。次に、ホストからコンピューター４８－２に待ち時間（４８１２）を送信し、コンピューターの画面に待ち時間が表示される（４８１３）。入場者は待ち時間を確認（４８１４）する。

【０１１３】

又、コイルＮｏ．をホストコンピューターに送信することにより、アトラクション入場の予約、キャンセルを（予約）（キャンセル）の項で説明した手段と同様の手段で行うことが出来る。アトラクションの情報には、アトラクションの内容、乗車時間、場所などが含まれており、ホストからコンピューターに情報が送信され画面上に表示される。

【０１１４】

又、コイルＮｏ．をホストコンピューターに送信することにより、アトラクションの予約とキャンセルを（予約）（キャンセル）の項で説明した手段と同様の手段で行うことが出来る。

【０１１５】

本システムの第３７の効果として、案内所で、来場者に施設入場までの待ち時間を通知することが、あげられる。第３８の効果として、案内所で、来場者が施設内で利用した合計金額を通知するということが、あげられる。第３９の効果として、案内所で、施設への入場予約を行うことが、あげられる。第４０の効果として、案内所で、施設への入場予約のキャンセルを行うことが、あげられる。

【０１１６】

図４９において、入園者１が所持するトランスポンダーを１－１とする。案内所に設置されている読み取り装置を９－１、オペレーターを９－２とする。中央管理局に設置されるホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。以下、図４９を用いてキャンセルの動作を説明する。

【０１１７】

入園者１が予約のキャンセルを希望する（４９０１）。先ず、案内所のオペレーターにキャンセル希望を伝える。トランスポンダー１－１は読み取り装置９－１から呼び出し（４９０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２））（４９０３）を送信する。そして、読み取り装置からコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、鍵コード（２７０３－２）、アトラクション名（２７０３－５）、キャンセル（４９０４－１））がホスト３－２へ送信（４９０４）される。ホストではトランスポンダーの認証（４９０５）が行われる。次に、登録（４９０６）を行う。登録は図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、アトラクション名（２７０３－５）、キャンセル（４９０４－１））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）のアトラクション登録情報１の予約時間（４９２１）を’０’に書き換える。又アトラクションデータベース（図

１４）の予約ゲート通過を’１’から’０’に書き換える（３６０２）。以上で、キャンセル登録を終了する。次に、ホストからオペレーター９－２にキャンセル完了（４９０７）を通知し、オペレーターから入場者にキャンセルが完了（４９０８）したことが連絡される。以上で、キャンセルが完了（４９０９）する。

【０１１８】

本システムによる第４１の効果として、入場予約のキャンセルが可能であることが、あげられる。

【０１１９】

図５０において、入場者Ｘが所持するページャーを５０－２とし、中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。

【０１２０】

ホストは、入場ＯＫ呼び出しを受信した人がアトラクションに足を運んでいるかどうか、確認する必要がある。これは、入場予約を行ったが実際には入場しなかった人の人数を調べるためで、呼び出しているにも関わらず入場者が極端に少ない場合、新たな入場ＯＫ呼び出し者を追加する必要がある。以下、図５０を用いて入場者減少防止策の動作を説明する。

【０１２１】

ホスト３－２は一定時間毎に、データベース３－３へ入場人数データ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（５００１）を送信する。本実施例では、２０分毎に送信するとする。すると、データベース３－３からホスト３－２へ入場人数データ（図１６）（５００２）が送信される。ホストは２０分ごとの通過人数が１００人未満かどうかを判定（５００３）する。例として、アトラクション１の１０：２０のデータを判定する。このときの入場人数は、９７人であり、１００人未満である。判定はＹであるので、ホストはデータベースへアトラクションデータ読み出し要求（アトラクション名（２７０３－５））（５００４）を行う。すると、データベース３－３からホスト３－２へアトラクションデータ（５００５）が送信され、ホストは新たな入場ＯＫ者を１００人追加（５００６）する。次に登録（５００７）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへ新たな入場Ｏ．Ｋ．者のデータ（コイルＮｏ．（２９１０－１）、アトラクション名（２９１０－５））を送信（３６０１）すると、データベースはアトラクションデータの入場ＯＫ呼び出しを書き換える（３６０２）。ホストはメッセージコード＝入場ＯＫ（１９０３）と設定（５００８）する。次にホストはメッセージ（１９０３）を作成（５００９）する。メッセージ作成は図１９に示す。メッセージコード＝入場ＯＫ（１９０３）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．２１，Ｎｏ．０６，Ｎｏ．０９，Ｎｏ．１０とページャーＮｏ．（５０－１）を設定（２００３）する。ホストはメッセージ（２００３）送信命令（５０１０）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー５０－２へメッセージ（２００３）を送信（５０１１）する。ページャーは図２０に従い、メッセージ（２００３）を表示（５０１２）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００３）はアトラクション１　ニュウジョウＯＫイリグチゲートニ　キテクダサイと表示される。一方、判定（５００３）がＮの時ホストは何も実行しない。

【０１２２】

本システムによる第４２の効果として、入場の呼び出しを行っているにも関わらず、そのアトラクションに入場する人数が極端に少なかった場合、入場呼び出し者を臨時に追加することが出来る手段を有することが、あげられる。第４３の効果として、入場者の人数を把握する為のデータを有することが、あげられる。

【０１２３】

図５１において、関係者１を１－４、ページャーを１－２、中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２、データベースを３－３とする。案内所を９とする。

【０１２４】
団体（学校、職場、自治会など）が来園した場合、その団体に食事時間の連絡や集合場所・時間の連絡をする必要が出てくる。そのためにあらかじめその団体に渡すトランスポンダーのコイルＮｏ．を登録しておく。次のような例を考える。団体Ａが来園したとして、団体Ａの関係者には、ページャーＮｏ．が３０００から３９９９までのページャーを渡しておく。団体Ａの団体Ｎｏ．を５１０２－１とする。以下、団体呼び出しを図５１を用いて説明する
団体Ａの責任者は、案内所に団体呼び出し希望（５１０１）を伝える。メッセージ内容は、“団体Ａのみなさん退園ゲートにきてください“とする。そこで、オペレーターは、メッセージコード＝団体呼び出し（１９０７）をメッセージデータベースのＮｏ．１８，Ｎｏ．１９，Ｎｏ．２０，Ｎｏ．１０と作成（５１０２）する。案内所からホストに団体呼び出し希望（団体Ｎｏ．（５１０３－１）、呼び出し希望（５１０３－２）、メッセージコード（１９０７））が送信（５１０３）される。ホストは、メッセージを作成（５１０４）する。メッセージデータベースのＮｏ．１８，Ｎｏ．１９，Ｎｏ．２０，Ｎｏ．１０とページャーＮｏ．（３０００から３９９９）を設定（２００７）する。ホストはメッセージ（２００７）送信命令（５１０５）をページャー発信局へ送信する。発信局は団体Ａの関係者のページャーへメッセージ（２００７）を送信（５１０６）する。ページャーは、メッセージ（２００７）を表示（５１０７）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００７）はダンタイＡノ　ミナサン　タイエンゲートニ　キテクダサイ　と表示される。
【０１２５】
本システムによる第４４の効果として、施設に来園している団体から、団体呼出の希望があった場合、団体の参加者全員が携帯しているメッセージ受信手段に一斉に呼出をかけることが、あげられる。
【０１２６】
図５２を用いて特別予約を説明する。本遊園地システムでは予約の際、予約ゲートを通過するだけで済み実際に並ぶ必要がない。つまり、自分の前後の予約者が誰であるか分からない。このことを利用して、　ＶＩＰや身体障害者用の特別予約を行う事が可能である。特別予約者が所持するトランスポンダーを１－１、ページャーを１－２とする。アトラクション１に設置されている予約ゲートを２－１とする。中央管理局に設置されるページャー発信局を３－１、ホストコンピューターを３－２とする。
【０１２７】
例として、アトラクション１の特別予約を説明する。先ず、入園時にＶＩＰや身体障害者の方に特別予約用のコイルＮｏ．（９００１）を提供しておく。予め、特別予約者のコイルＮｏ．を９０００番台と定めておく。特別予約者がアトラクションの入場を希望した場合、先ず予約ゲートを通過（５２０１）する。トランスポンダー１－１は予約ゲート２－１から呼び出し（５２０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（９００１）、鍵コード（５２０３－２））（５２０３）を送信する。そして、予約ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（９００１）、鍵コード（５２０３－２）、　予約ゲート通過（５２０３－３）、予約ゲート通過時間（５２０３－４）、アトラクション名（５２０３－５））がホスト３－２へ送信（５２０４）される。ホストでは認証（５２０５）が行われる。認証を終了すると、予約者が特別予約者かどうか判定（５２０６）する。予約者のコイルＮｏ．が９０００番台であるかどうか調べ、９０００番台であるならば特別予約者であるので次に登録（５２０７）を行う。登録は、図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（９００１）、予約ゲート通過（５２０３－３）、予約ゲート通過時間（５２０３－４）、アトラクション名（５２０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベースのアトラクション登録情報にアトラクション名（５２０３－５）と予約ゲート通過時間（５２０３－４）の書き込み、又特別予約者アトラクションデータベース（図１５）にコイルＮｏ．（９００１）と予約ゲート通過（５２０３－３）とアトラクション名（５２０３－５）の書き換え（３６０２）を行う。特別

予約者は、待ち時間なしで入場ＯＫとするので、次にメッセージコード＝入場ＯＫ（１９０３）を設定（５２０８）する。次にホストはメッセージ（１９０３）を作成（５２０９）する。メッセージ作成は図１９に示す。メッセージコード＝　入場ＯＫ（１９０３）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．２１，Ｎｏ．０６，Ｎｏ．０９，Ｎｏ．１０とページャーＮｏ．（９００１）を設定（２００３）する。ホストはメッセージ（２００３）送信命令（５２１０）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００３）を送信（５２１１）する。ページャーは図２０に従い、メッセージ（２００３）を表示（５２１２）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００３）はアトラクション１　ニュウジョウＯＫ　イリグチゲートニ　キテクダサイと表示される。メッセージを受信した特別予約者は、アトラクションに入場となる。以下の行程は、他の入場者と同様である。

【０１２８】

本システムの第４５の効果として、ＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が施設への入場を予約した場合、一般来場者に気付かれずに優先予約を行うことが、あげられる。第４６の効果として、制御手段がデータを管理し、制御することによりＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が、待ち時間なしで施設に入場することが、あげられる。

【０１２９】

図５にトランスポンダーの構成図を示す。アンテナを１５－１、ＩＣパッケージを１５－２、チューブを１５－３とする。図６にトランスポンダー読み取り・書き込み器を示す。コントロールモジュールを１６－１、ＲＦモジュールを１６－２とする。図６に示したトランスポンダー読み取り器を図４に示す様に、ゲートの柱の内側に設置する。このように設置することにより、ゲートをくぐる人物のトランスポンダーのデータを読みとることが出来る。図７にトランスポンダの通信方法の構成図を示す。読取器を１７－１、トランスポンダを１７－２、送信を１７－３、送信・受信デコードを１７－４、受信を１７－５とする。

【０１３０】

始めに、トランスポンダーの通信方法について説明する。図５３において、読取器を５３－１、トランスポンダを５３－２とする。

【０１３１】

読取器（５３－１）からトランスポンダ（５３－２）に電波を送信（５３０１）して、トランスポンダに応答用エネルギーを与える（５３０２）。すると、読み取り器は送信状態から受信可能状態に切り替わる（５３０３）。そして、トランスポンダからの信号を受信（５３０４）する。読み取り器は、受信信号をディジタル信号に変換（５３０５）し、エラーチェックを行う。

【０１３２】

次に、トランスポンダーホスト間のシステム図を説明する。図８において、トランスポンダを１８－１、アンテナを１８－２、読み取り器を１８－３、ホストコンピューターを１８－４とする。上記に示した方法により、トランスポンダの信号を読み取り器は、受信する。読み取り器は、受信信号をディジタル信号に変換して、ホストコンピューターに送信する。送信方法として、図１に示す有線による送信と図２に示す無線による送信が考えられる。

【０１３３】

図５４を用いて、磁気カードの情報伝達方法を説明する。図５４において、磁気カードを５４－１、磁気ヘッドを５４－２、読み取り器を５４－３とする。予め入園時に、シリアルＮｏ．が入力されている磁気カードを入場者に渡しておく。以下、予約などの登録の際にトランスポンダーを用いる代わりに、磁気カードを用いる方法について説明する。

【０１３４】

先ず、磁気カードを読み取り器にとおす（５４０１）。すると、磁気ヘッドによりカードの情報を読み取る（５４０２）。磁気ヘッドから読み取り器に読み取った情報（シリアルＮｏ．）を送信し（５４０３）、読み取り器は情報を受信（５４０４）する。情報は、読

み取り器よりホストへ送信され、以下トランスポンダーを用いた場合と同様の過程となる。

【０１３５】

図５５を用いて、バーコードの情報伝達方法を説明する。図５５において、バーコードを５５－１、読み取り器を５５－２とする。予め入園時に、シリアルＮｏ．が入力されているバーコードを入場者に渡しておく。以下、予約などの登録の際にトランスポンダーを用いる代わりに、バーコードを用いる方法について説明する。

【０１３６】

先ず、読み取り器からバーコードに情報呼び出しが送信（５５０１）される。すると、バーコード情報（シリアルＮｏ．）が読み取り器に渡される（５５０２）。読み取り器は情報を受信（５５０３）する。情報は、読み取り器よりホストへ送信され、以下トランスポンダーを用いた場合と同様の過程となる。

【０１３７】

本システムでは、個人認証番号を含むデータを保持する保持手段としてトランスポンダー、メッセージ受信手段に音声表示型のページャーを用いて説明した。図５６を用いて登録表示一体型端末の送受信方法を説明する。一体型端末を５６－１、入園ゲートを６－１、発信局を３－１、ホストを３－２とする。

【０１３８】

ゲートを通過（５６０１）する。一体型端末５６－１はゲートから呼び出し（５６０２）を受信し、呼び出し応答（コイルＮｏ．（５６０３－１）、鍵コード（５６０３－２））（５６０３）を送信する。そして、ゲートからコイルデータ（コイルＮｏ．（５６０３－１）、鍵コード（５６０３－２）、ゲート通過（５６０３－３）、ゲート通過時間（５６０３－４）、アトラクション名（５６０３－５））がホスト３－２へ送信（５６０４）される。そして、トランスポンダーの認証（５６０５）が行われる。認証方法は、図３４で示す。ホスト３－２はデータベース３－３へ個人データ内の鍵コード読み出し要求（コイルＮｏ．（２７０３－１））（３４０１）を行うと、データベース３－３からホスト３－２へ個人データ（コイルＮｏ．（３４０２－１）、鍵コード（３４０２－２））が送信（３４０２）される。コイルデータ内の鍵コード（２７０３－２）とデータベースより読み出した鍵コード（３４０２－２）を比較（３４０３）して、等しければ認証Ｏ．Ｋ．となりＹへ、違うときは認証Ｎ．Ｇ．でＮとなる。Ｎの時、メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）と設定（３４０４）される。以上で認証を終了する。認証ＮＧの時は、メッセージ作成（２７０８）へ進む。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝認証ＮＧ（１９００）の時、ホストはメッセージデータベースのメッセージＮｏ．０２とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２０００）する。ホストはメッセージ（２０００）送信命令（２７０９）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２５００）を送信（２７１０）する。ページャーはメッセージ（２０００）を表示（２７１１）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２０００）はニンショウＮＧと表示される。一方、図２７で認証ＯＫの時は、認証につづいて登録（５６０６）を行う。登録を図３６を用いて説明する。ホストはデータベースへコイルデータ（コイルＮｏ．（２７０３－１）、入園ゲート通過（２７０３－３）、入園ゲート通過時間（２７０３－４）、アトラクション名（２７０３－５））を送信（３６０１）すると、データベースは個人データベース（図１３）の入園時間（１００９）の書き込み（３６０２）を行う。ホストは、メッセージコード＝入場判定Ｙ（１９０４－３）を設定（５６０７）する。ホストは、メッセージを作成（５６０８）する。メッセージ作成を図１９を用いて説明する。メッセージコード＝入場判定Ｙ（２００４－３）の時、ホストはデータベースのメッセージＮｏ．０１とページャーＮｏ．（１２２８）を設定（２００４－３）する。ホストはメッセージ（２００４－３）送信命令（５６０９）をページャー発信局３－１へ送信する。発信局はページャー１－２へメッセージ（２００４－３）を送信（５６１０）する。ページャーは、図２０に従いメッセージ（２００４－３）を表示（５６１１）する。表示例は図２０で示す。メッセージ（２００４－３）はＷＥＬＣＯＭＥ　と表示され

る。入園者１は入園（５６１２）となる。
【０１３９】
次に、図９を用いて登録表示一体型端末の内部構成図を示す。これは、少なくとも個人認証番号を記憶するメモリと受信したメッセージを表示する表示装置、スピーカーと、入力の時に使用するマイク、キーパッドと、送受信に用いられる変調・復調装置と、ＣＰＵから構成されている。
【０１４０】
本システムの第４７の効果として、今まではデータを保持する保持手段とメッセージ受信手段を別々に所持する必要があったが、前記保持手段と前記メッセージ受信手段を兼ね備えた登録表示一体型端末により１端末でデータ保持とメッセージ受信を行うことが、あげられる。
【０１４１】
【発明の効果】
第１の効果として、特定の施設への来場者に携帯させるメッセージ受信手段に制御手段が受信したデータに基づいてデータベースを検索し対応するメッセージを前記受信手段に表示することが、あげられる。第２の効果として、前記来場者がメッセージ受信に不適切な場所に存在している場合、メッセージ受信手段にメッセージを通知することをを中断し、受信に適切な場所に移動後再びメッセージ受信手段にメッセージを通知することが、あげられる。第３の効果として、来場者が施設の入場予約を完了した時、制御手段が記憶手段より来場者が施設に予約した順番と、施設に入場した人数を読み出し、入場までの待ち時間を算出して、メッセージ受信手段に待ち時間を通知することがあげられる。第４の効果として、制御手段が、記憶手段より来場者が施設内で利用した金額を読み出し、合計金額を算出し、メッセージ受信手段に施設内で利用した金額を通知することが、あげられる。第５の効果として、制御手段に管理され、施設の待ち時間と連絡事項を掲示板に表示することが、あげられる。第６の効果として、施設に来園している団体から、団体呼出の希望があった場合、団体の参加者全員が携帯しているメッセージ受信手段に一斉に呼出をかけることが、あげられる。第７の効果として、施設の管理者が、施設の来場者が利用した施設名と施設内で購入した品目、食事の品目を管理することが、あげられる。第８の効果として、制御手段が記憶手段に記憶されているデータを性別、年齢別に分類することにより、施設の管理者が、来場者の性別と年齢別に利用施設名を管理することが、あげられる。第９の効果として、制御手段が記憶手段に記憶されているデータから、施設別に来場人数を管理することが、あげられる。第１０の効果として、施設への入場を予約する時、長時間行列を作って並ぶ必要がなく、読取手段が設置されている予約ゲートを通過し、個人認証番号を登録することにより予約が完了することが、あげられる。第１１の効果として、個人認証番号を記憶手段に登録することにより予約を完了したとき、予約完了を来場者が携帯するメッセージ受信手段に予約完了メッセージを通知することが、あげられる。第１２の効果として、制御手段が予約者の施設への入場が可能であると判断した場合に、入場可能と判断された予約者が携帯するメッセージ受信手段に入場許可メッセージを通知することが、あげられる。第１３の効果として、来場者が施設の入場予約を完了した時、制御手段が入場までの待ち時間を算出することが、あげられる。第１４の効果として、来場者が施設への入場を予約したとき、制御手段が記憶装置に記憶されているデータから、来場者が施設に入場が可能であるか判定することが、あげられる。第１５の効果として、来場者が２重に予約を試みたとき、予約を受け付けないことが、あげられる。第１６の効果として、制御手段がメッセージ受信手段に入場可能となったことを通知している数に対して、施設に入場する人数が極端に少なかった場合、効率よく稼働させるために入場呼出者を臨時に追加することが、あげられる。第１７の効果として、来場者が施設入場への予約のキャンセルを希望した場合、予約をキャンセルすることが、あげられる。第１８の効果として、来場者が同時に行える予約数を制限することが、あげられる。第１９の効果として、入場を許可されていない人物が施設への入場を試みたとき、制御手段が入場を許可されていない人物の入場を規制することが、あげられる。第２０の効果として、顧客は売店で

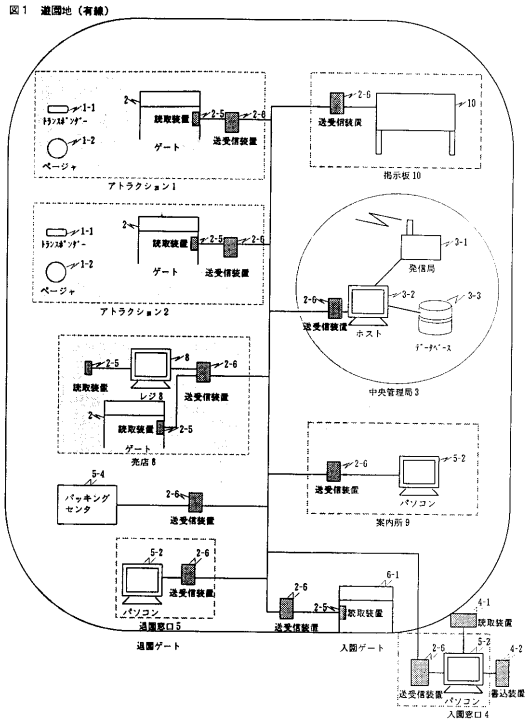
購入した商品を施設内で持ち歩く必要がなくなり、商品引き渡し場所で購入した商品を一括して受け取ることが、あげられる。第２１の効果として、顧客は施設内の売店、レストランで毎回清算する必要がなくなり、施設退園時に一括して清算することが、あげられる。第２２の効果として、施設内で利用した料金を銀行又はクレジットカードで支払うことが、あげられる。第２３の効果として、来場者が施設に入場する度に制御手段が個別課金を行い、来場者が退園する時に一括して清算することが、あげられる。第２４の効果として、来場者が施設内で購入した商品を一括してパッキングを行い、来場者が退園時にパッキングされた品物を一括して受け取ることが、あげられる。第２５の効果として、制御装置がデータベースより、来場者の個人認証番号と購入した品名を読み出し、パッキングセンターに設置されている受信手段にデータを通知し、パッキングセンターにおいて品物のパッキングを行うことが、あげられる。第２６の効果として、施設への来場者が園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成される個人データを出力することが、あげられる。第２７の効果として、来場者が園内で利用したアトラクション名、購入した品名、食事の品名から構成される個人データを来場者に差し上げることが、あげられる。第２８の効果として、来場者の少なくとも氏名を含む個人データと利用した施設名、購入した品目、食事の品目を個人データとして記憶することが、あげられる。第２９の効果として、来場者が無断で施設に入場を試みたとき、個人認証番号を確かめることにより入場を規制することが、あげられる。第３０の効果として、ＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が施設への入場を予約した場合、一般来場者に気付かれずに優先予約を行うことが、あげられる。第３１の効果として、制御手段がデータを管理することによりＶＩＰや身体障害者のような特別来場者が、待ち時間なしで施設に入場することが、あげられる。第３２の効果として、顧客が施設内のレストランで食事をする時、少なくとも氏名を含む個人データベースに各食事の品目を登録することが、あげられる。第３３の効果として、施設内のレストランでの食事の合計金額を算出し、メッセージ受信手段に金額を表示することが、あげられる。第３４の効果として、案内所で、個人別の情報を通知したり、施設への入場予約、またはキャンセルを行うことが、あげられる。第３５の効果として、案内所で、来場者に施設入場までの待ち時間を通知することが、あげられる。第３６の効果として、案内所で、来場者が施設内で利用した合計金額を通知するということが、あげられる。第３７の効果として、案内所で、施設への入場予約を行うことが、あげられる。第３８の効果として、案内所で、施設への入場予約のキャンセルを行うことが、あげられる。第３９の効果として、今まではデータを保持する保持手段とメッセージ受信手段を別々に所持する必要があったが、前記保持手段と前記メッセージ受信手段を兼ね備えた登録表示一体型端末により１端末でデータ保持とメッセージ受信を行うことが、あげられる。

【図面の簡単な説明】

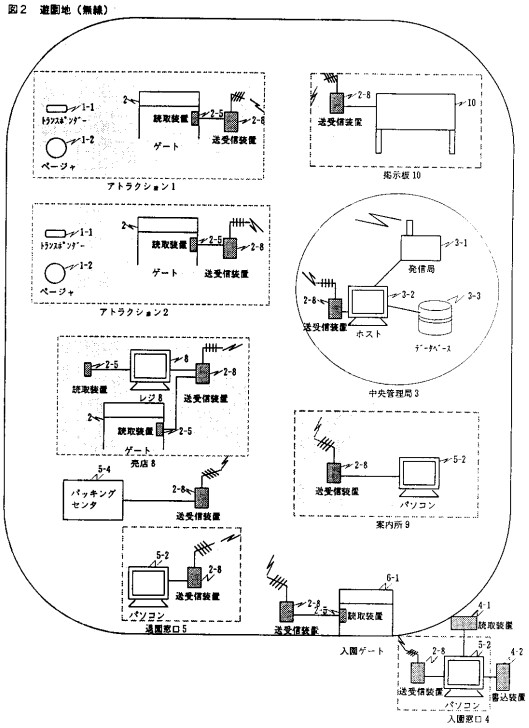
【図１】本発明における、遊園地の有線ネットワーク構成図。
【図２】本発明における、遊園地の無線ネットワーク構成図。
【図３】本発明における、遊園地構成図。
【図４】読み取り装置ゲート設置図。
【図５】トランスポンダ構成図。
【図６】読み取り書き込み装置構成図。
【図７】トランスポンダーの通信方法の動作例を示す図。
【図８】トランスポンダーホスト間のシステム図。
【図９】登録表示一体型端末構成図。
【図１０】登録表示一体型端末外観図。
【図１１】ホスト構成図。
【図１２】本発明における、コンピューターの案内画面による問い合わせの表示画面。
【図１３】本発明における、個人データベース構成図。
【図１４】本発明における、アトラクションデータベース構成図。
【図１５】本発明における、特別予約者アトラクションデータベース構成図。

【図１６】本発明における、入場人数データベース構成図。
【図１７】本発明における、待ち時間とメッセージＮｏ．の関係図。
【図１８】本発明における、メッセージデータベース構成図。
【図１９】本発明における、メッセージ作成の動作例を示す図。
【図２０】本発明における、メッセージ表示の表示例を示す図。
【図２１】本発明における、掲示板の表示例を示す図。
【図２２】本発明における、個人データシートの構成図。
【図２３】本発明における、アトラクション別の利用人数分析結果のグラフを示す図。
【図２４】本発明における、計算式を示す図。
【図２５】本発明における、計算式を示す図。
【図２６】本発明における、入園登録の動作例を示す図。
【図２７】本発明における、入園の動作例を示す図。
【図２８】本発明における、入園の動作例を示す図。
【図２９】本発明における、入場ＯＫ判定の動作例を示す図。
【図３０】本発明における、入場の動作例を示す図。
【図３１】本発明における、乗車の動作例を示す図。
【図３２】本発明における、退場の動作例を示す図。
【図３３】本発明における、退園の動作例を示す図。
【図３４】本発明における、認証の動作例を示す図。
【図３５】本発明における、認証の動作例を示す図。
【図３６】本発明における、登録の動作例を示す図。
【図３７】本発明における、予約数確認の動作例を示す図。
【図３８】本発明における、重複登録判定の動作例を示す図。
【図３９】本発明における、待ち時間設定の動作例を示す図。
【図４０】本発明における、送信ＯＫ判定の動作例を示す図。
【図４１】本発明における、入場判定の動作例を示す図。
【図４２】本発明における、合計金額計算の動作例を示す図。
【図４３】本発明における、アトラクション課金の動作例を示す図。
【図４４】本発明における、買い物の動作例を示す図。
【図４５】本発明における、レストランの動作例を示す図。
【図４６】本発明における、掲示板表示の動作例を示す図。
【図４７】本発明における、案内所問い合わせの動作例を示す図。
【図４８】本発明における、コンピューターの案内画面による問い合わせの動作例を示す図。
【図４９】本発明における、キャンセルの動作例を示す図。
【図５０】本発明における、入場者減少防止策の動作例を示す図。
【図５１】本発明における、団体呼び出しの動作例を示す図。
【図５２】本発明における、ＶＩＰ，身体障害者用の特別予約の動作例を示す図。
【図５３】本発明における、トランスポンダーの通信方法の動作例を示す図。
【図５４】本発明における、磁気カードの情報受信の動作例を示す図。
【図５５】本発明における、バーコードの情報受信の動作例を示す図。
【図５６】本発明における、登録表示一体型端末の動作例を示す図。
【符号の説明】
１…入園者、１－１…トランスポンダー、１－２…ページャー、２…ゲート、２－５…読み取り装置、２－６…送受信装置、２－８…送受信装置、３…中央管理局、３－１…ページャー発信局、３－２…ホスト、３－３…データベース、４－１…読取装置、４－２…書込装置、５…退園窓口、５－２…パソコン、５－４…パッキングセンタ、６－１…入園ゲート、８…売店、９…案内所、１０…掲示板。

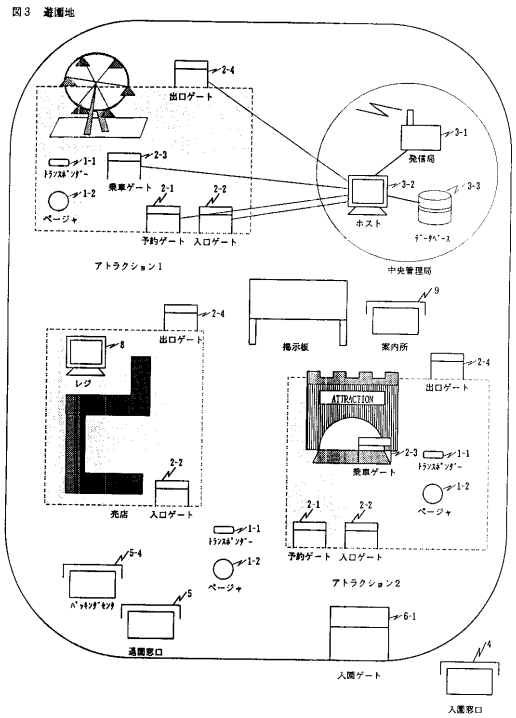
【図１】



【図２】

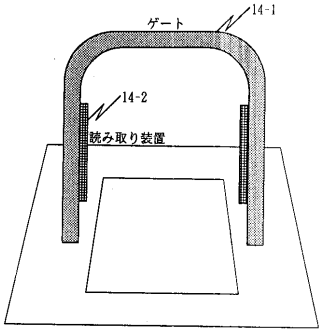


【図３】



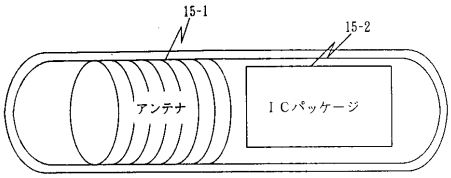
【図４】

図4 読み取り装置ゲート設置図



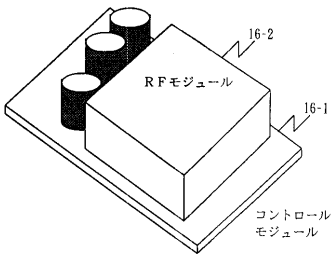
【図５】

図5 トランスポンダ



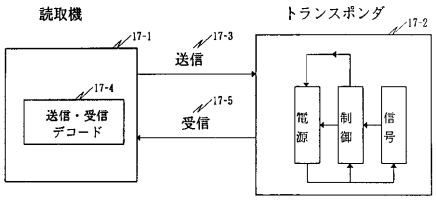
【図６】

図６　読み取り書き込み装置



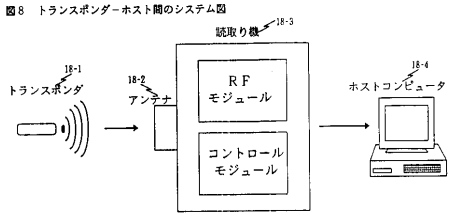
【図７】

図７　トランスポンダーの通信方法



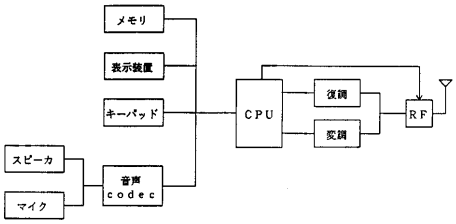
【図８】

図８　トランスポンダーホスト間のシステム図



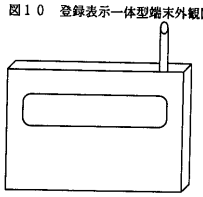
【図９】

図９　登録表示一体型端末



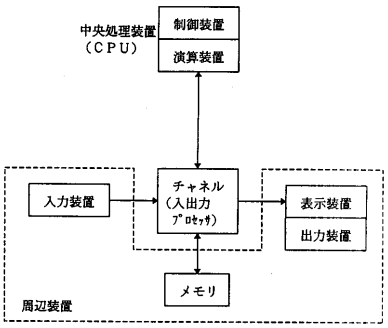
【図１０】

図１０　登録表示一体型端末外観図



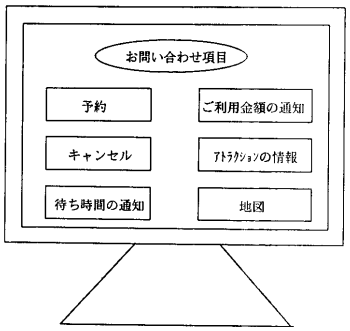
【図１１】

図１１　ホスト構成図



【図１２】

図１２　コンピューターの案内画面による問い合わせの表示画面



【図１３】

図１３　個人データベース

個人データ				
コイルＮｏ. 1000	鍵コード 1001	ページャーＮｏ. 1002	氏名 1003	住所 1004
個人データ				
年齢 1005	性別 1006	職業 1007	ＴＥＬ－Ｎｏ. 1008	
入退園				
入園時間 1010	退園時間 1011	支払済 1012	フリーパス 1013	個別料金 1014
アトラクション登録情報　１				
アトラクション名 1020	予約時間 1021	入口時間 1022	乗車時間 1023	出口時間 1024
・ ・				
アトラクション登録情報　４０				
アトラクション名 1215	予約時間 1216	入口時間 1217	乗車時間 1218	出口時間 1219
レストラン情報　１				
レストラン名 1220	入口時間 1221	出口時間 1222	品名 1223	金額 1224
・ ・				
レストラン情報　１０				
レストラン名 1400	入口時間 1401	出口時間 1402	品名 1403	金額 1404
買い物情報　１				
売店名 1420	入口時間 1421	出口時間 1422	品名 1423	金額 1424
・ ・				
買い物情報　１０				
売店名 1600	入口時間 1601	出口時間 1602	品名 1603	金額 1604

【図１４】

図１４　アトラクションデータベース

待ちＮｏ.	コイルＮｏ.	予約ゲート通過	入場ＯＫ時出	入口ゲート通過	乗車ゲート通過	出口ゲート通過
1	２５	1	1	1	1	1
2	１４８	1	1	1	1	1
3	３９１	1	1	1	1	1
4	３９２	1	1	1	1	1
5	１０９	1	1	1	1	1
6	６８	1	1	1	1	1
7	３１５	1	1	1	1	1
8	４１	1	1	1	1	1
9	３８	1	1	1	1	1
・						
・						
・						
２０００	１２２７	1	0	0	0	0
２００１	１２２８	1	0	0	0	0
２００２		0	0	0	0	0
２００３		0	0	0	0	0
・						
・						
・						
９９９８		0	0	0	0	0
９９９９		0	0	0	0	0
通過人数（人）		２００１	１５９２	１５０８	１４２５	１３９６

【図１５】

図１５　特別予約者アトラクションデータベース

コイルNo.	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ名	予約ｹﾞｰﾄ通過	入口ｹﾞｰﾄ通過	乗車ｹﾞｰﾄ通過	出口ｹﾞｰﾄ通過
９０２７	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ２	1	1	1	1
９０２８	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ２	1	1	1	1
・ ・ ・					
９００１	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ１	1	0	0	0

【図１６】

図１６　入場人数データベース

	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ１	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ２	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ３	・・・	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ１０
９：００	－	－	－		－
９：２０	１４８	２１５	１７１		２４９
９：４０	２７４	３０３	２９７		３２６
１０：００	２３８	３６８	２８０		４９５
１０：２０	９７	４１２	２８８		５０３
・ ・					
１６：４０	－	－	－		－
１７：００	－	－	－		－

【図１７】

図１７　待ち時間

待ち時間（分）	メッセージNo.
０≦ｔ＜５	４１
５≦ｔ＜１０	４２
１０≦ｔ＜２０	４３
２０≦ｔ＜３０	４４
３０≦ｔ＜４０	４５
４０≦ｔ＜５０	４６
５０≦ｔ＜６０	４７
６０≦ｔ＜７０	４８
７０≦ｔ＜８０	４９
８０≦ｔ＜９０	５０
９０≦ｔ＜１００	５１
１００≦ｔ＜１１０	５２
１１０≦ｔ＜１２０	５３
１２０≦ｔ	５４

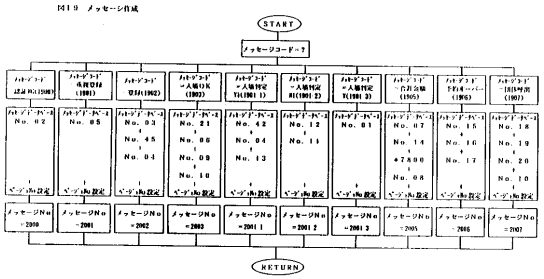
【図１８】

図１８　メッセージデータベース

メッセージNo.	メッセージ内容	メッセージNo.	メッセージ内容
０１	WELCOME	３１	アトラクション１１
０２	ニンショウNG	３２	アトラクション１２
０３	トウロクシマシタ	３３	アトラクション１３
０４	マチデス	３４	アトラクション１４
０５	トウロクズミデス	３５	アトラクション１５
０６	ニュウジョウOK	３６	アトラクション１６
０７	アリガトウゴザイマス	３７	アトラクション１７
０８	エンデス	３８	アトラクション１８
０９	イリグチゲートニ	３９	アトラクション１９
１０	キテクダサイ	４０	アトラクション２０
１１	ニュウジョウキンシ	４１	５フン
１２	ミトウロクデス	４２	１０プン
１３	オマチクダサイ	４３	２０プン
１４	ホンジツノゴウケイハ	４４	３０プン
１５	ヨヤクハ５コマデデス	４５	４０プン
１６	コレイジョウ	４６	５０プン
１７	ヨヤクデキマセン	４７	１ジカン
１８	ダンタイAノ	４８	１ジカン１０プン
１９	ミナサン	４９	１ジカン２０プン
２０	タイエンゲートニ	５０	１ジカン３０プン
２１	アトラクション１	５１	１ジカン４０プン
２２	アトラクション２	５２	１ジカン５０プン
２３	アトラクション３	５３	２ジカン
２４	アトラクション４	５４	２ジカンイジョウ
２５	アトラクション５	５５	
２６	アトラクション６	５６	
２７	アトラクション７	５７	
２８	アトラクション８	５８	
２９	アトラクション９	５９	
３０	アトラクション１０	６０	

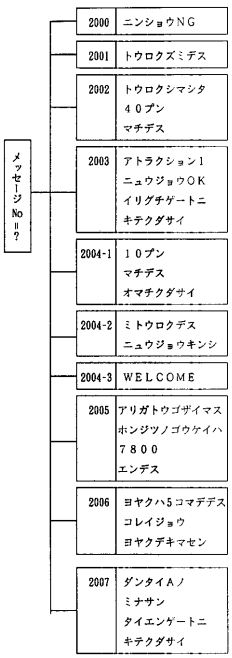
【図１９】

図１９　メッセージ作成



【図２０】

図２０　メッセージ表示



【図２１】

図２１　掲示板

アトラクション名	アトラクション１	アトラクション２	アトラクション３	・・・	アトラクション１０
待ち時間	４０プン	１ジカン２０プン	２ジカンイジョウ		２０プン
アトラクション名	アトラクション１１	アトラクション１２	アトラクション１３	・・・	アトラクション２０
待ち時間	３０プン	０フン	３０プン		１ジカン４０プン

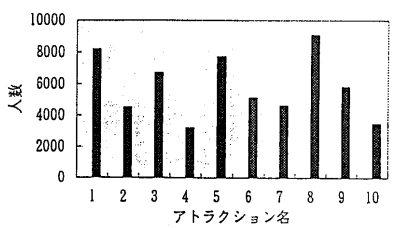
【図２２】

図２２　個人データシート

ＡＡＡ遊園地 平成７年１１月１６日		アトラクション情報			買い物情報		レストラン情報	
		アトラクション名	予約時間	乗車時間	品名	金額	品名	金額
コイルNo.								
氏名								
住所								
年齢								
性別								
職業								
TEL－No.								
入園時間								
退園時間								

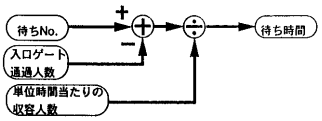
【図２３】

図２３　アトラクション別の利用人数分析結果



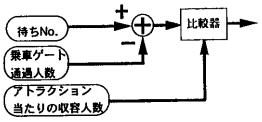
【図２４】

図２４



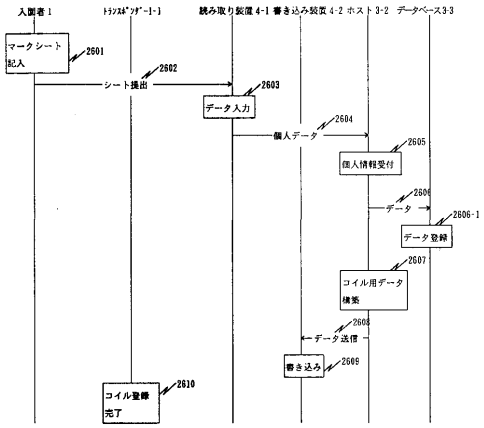
【図２５】

図２５



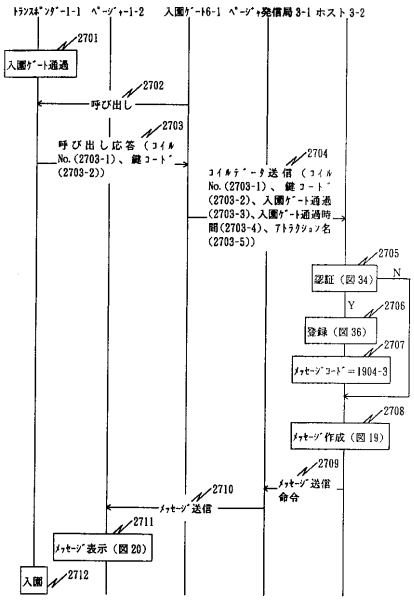
【図２６】

図２６　入園登録



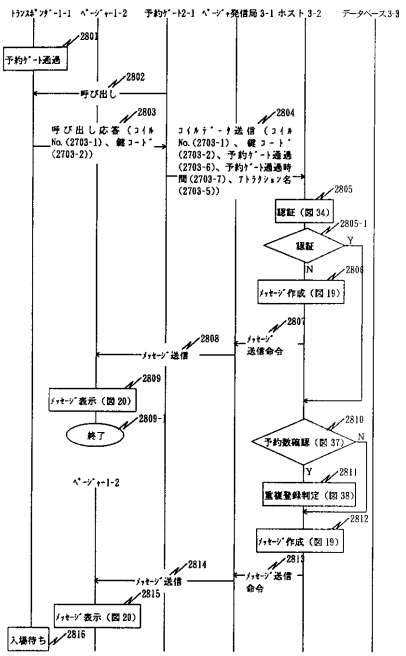
【図２７】

図２７　入園

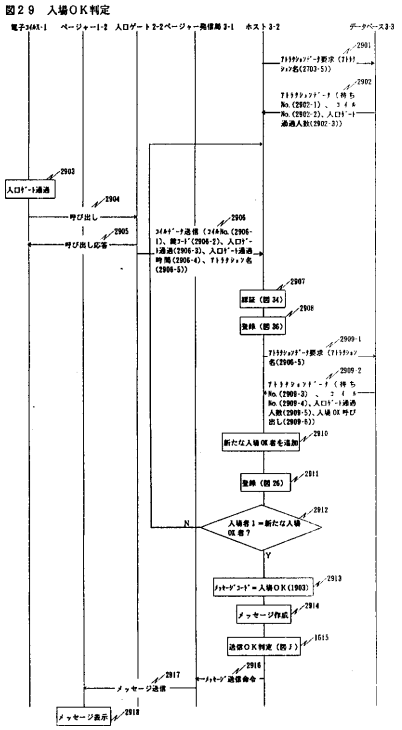


【図２８】

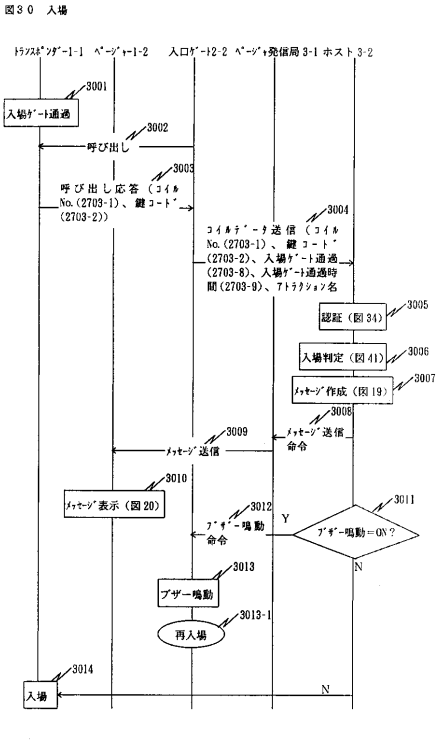
図２８　入場予約



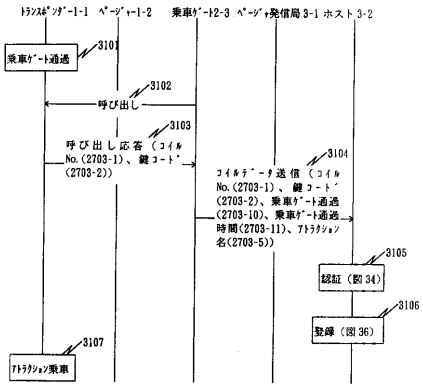
【図２９】



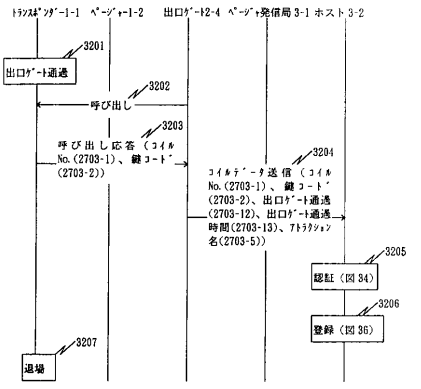
【図３０】



【図３１】

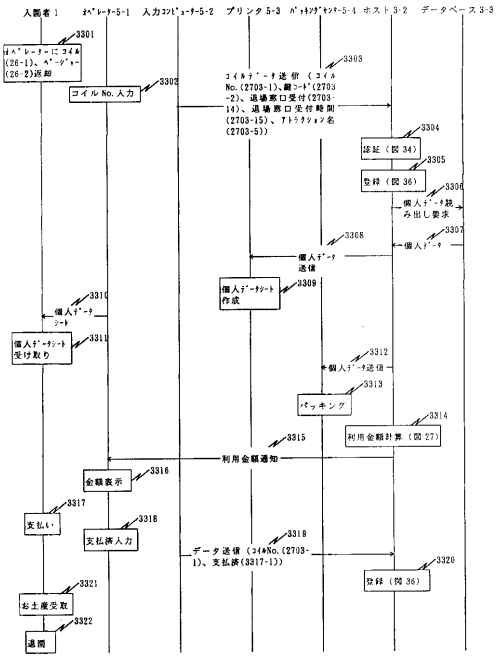


【図３２】



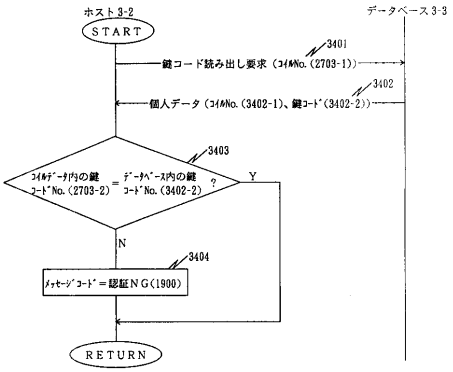
【図３３】

図３３　退園



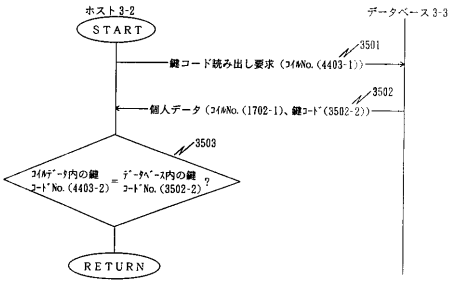
【図３４】

図３４　認証



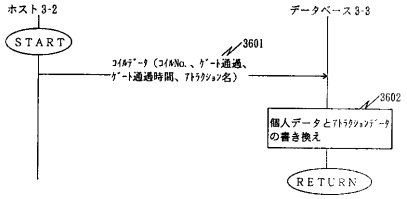
【図３５】

図３５　認証



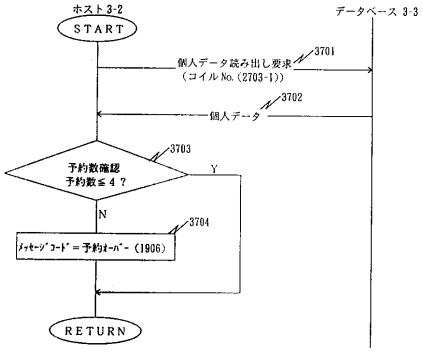
【図３６】

図３６　登録



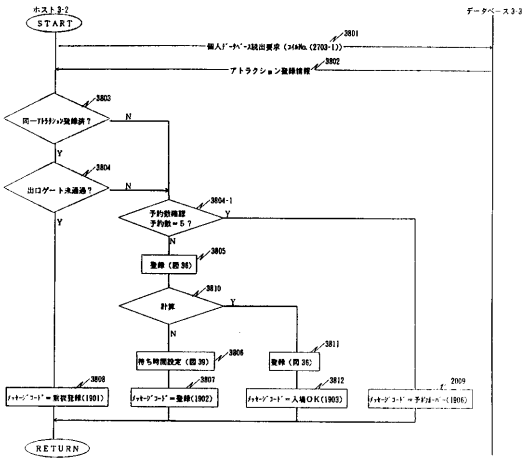
【図３７】

図３７　予約数確認



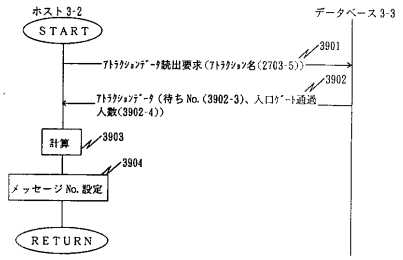
【図３８】

図３８　重複登録判定



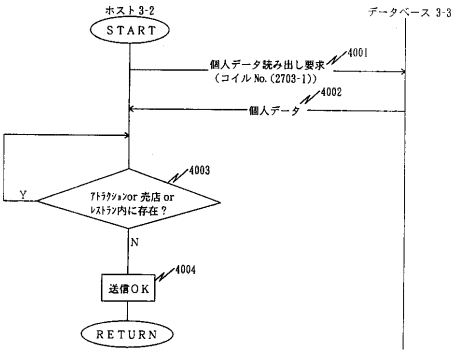
【図３９】

図３９　待ち時間設定



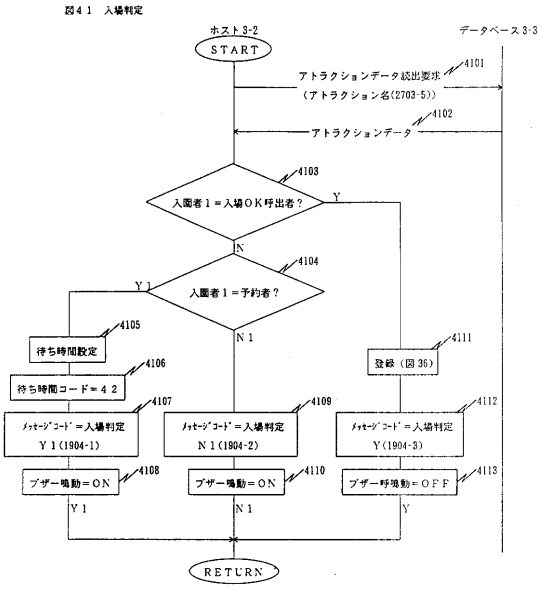
【図４０】

図４０　送信ＯＫ判定



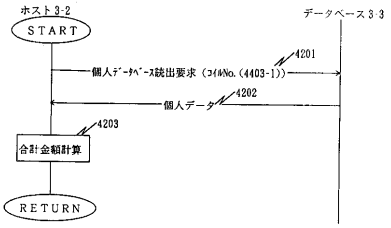
【図４１】

図４１　入場判定



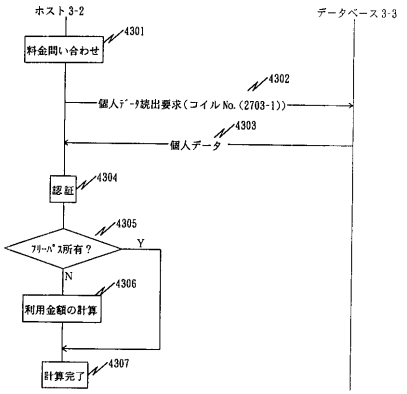
【図４２】

図４２　合計金額計算



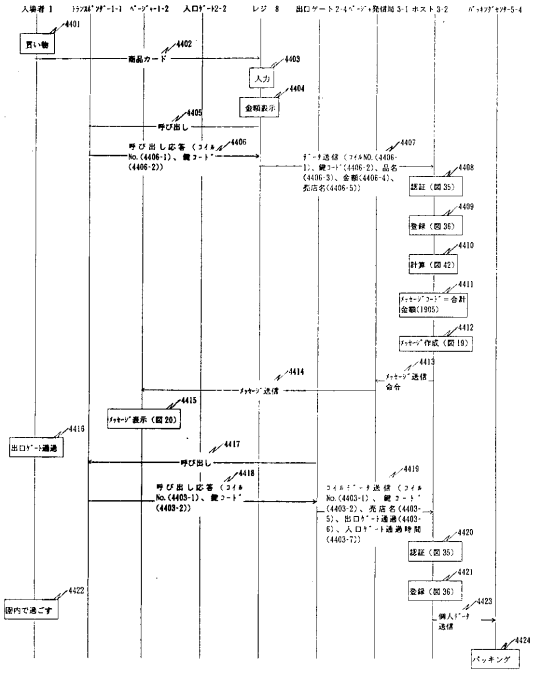
【図４３】

図４３　アトラクションの課金



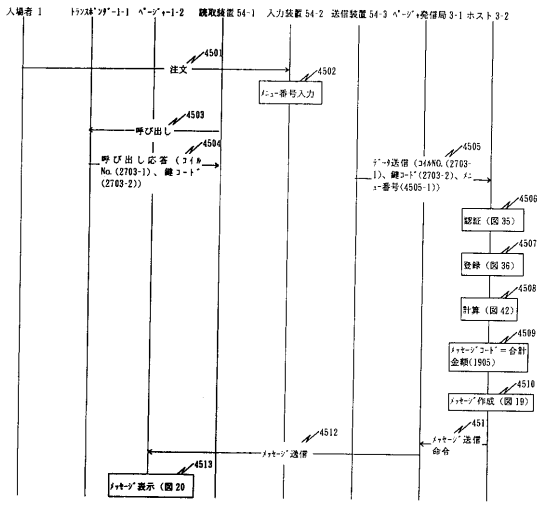
【図４４】

図４４　買い物



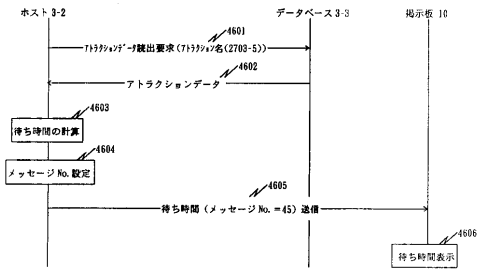
【図４５】

図４５　レストラン



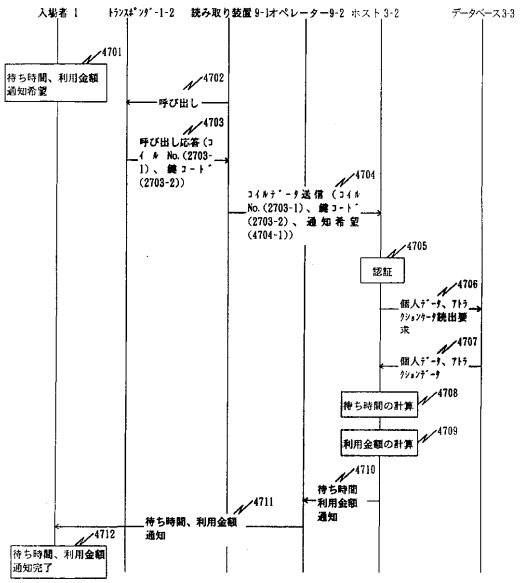
【図４６】

図４６　掲示板表示



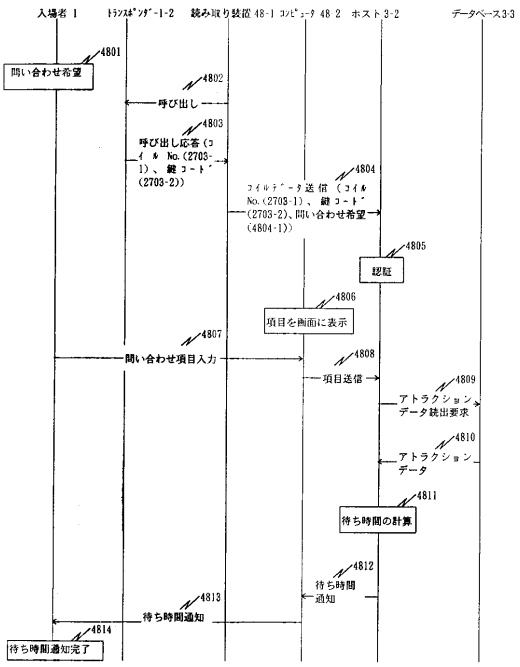
【図４７】

図４７　案内所問い合わせ



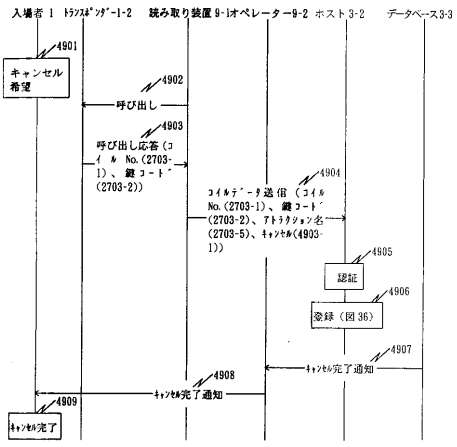
【図４８】

図４８　コンピューターの案内画面による問い合わせ



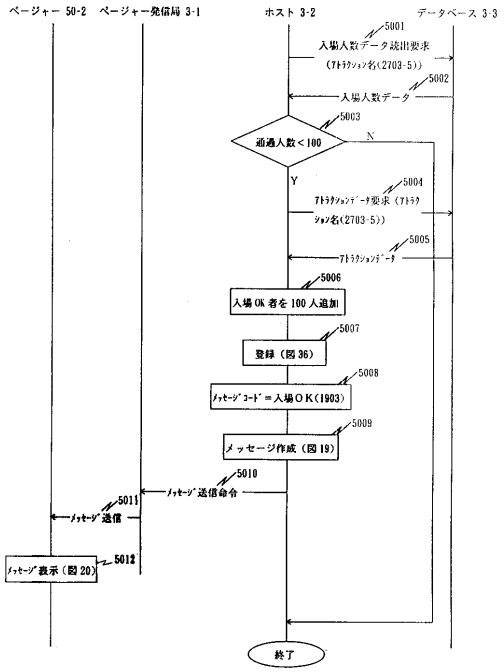
【図４９】

図４９　キャンセル



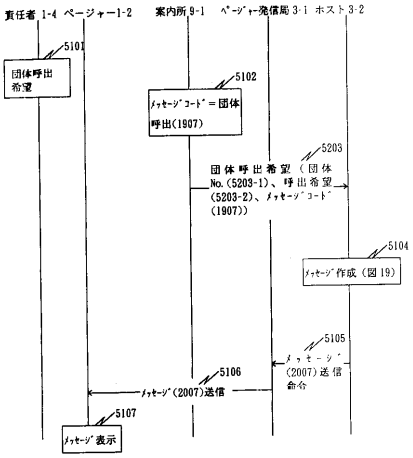
【図５０】

図５０　入場者減少防止策



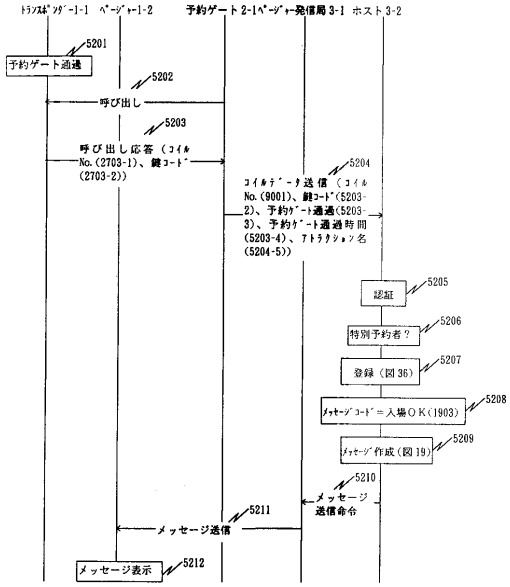
【図５１】

図５１　団体呼び出し



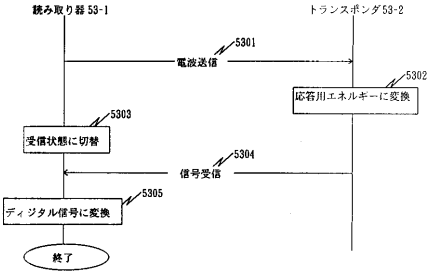
【図５２】

図５２　ＶＩＰ、身体障害者用の特別予約



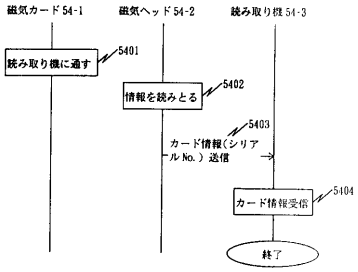
【図５３】

図５３　トランスポンダーの通信方法



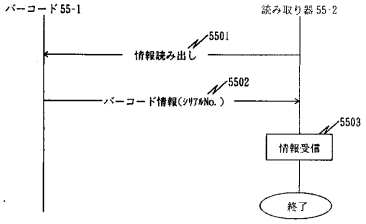
【図５４】

図５４　磁気カードの情報受信



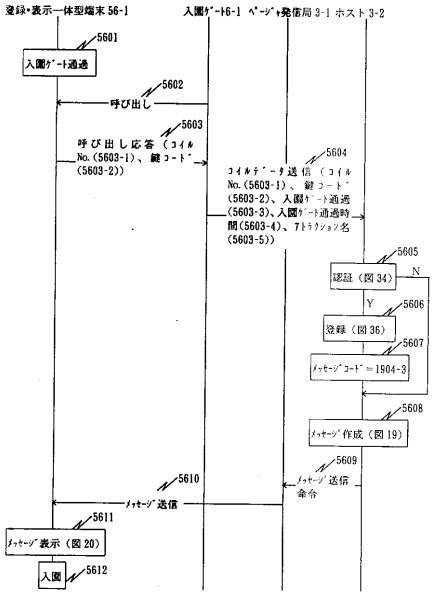
【図５５】

図５５　バーコードの情報受信



【図５６】

図５６　登録・表示一体型端末



フロントページの続き

審査官　森林　克郎

(56)参考文献　特開平０８－０１８５２３（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－０４９９１２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
G08B1/00-31/00、
H04B7/26、
H04L11/00